法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-27

和仏法律学校講義録

金井，延 / 矢作，榮藏 / 高橋，作衛 / 竹井，耕一郎 / 若槻，禮次郎

(出版者 / Publisher)
和佛法律學校
(巻 / Volume)
1-22
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
45
(発行年 / Year)
1902-09-20

（明治三十四年十一月四日第三種郵便物認可　毎月二回
明治三十五年九月二十日發行）

三十五年度　第一學年

和佛法律學校講義録

第貳拾貳號

和佛法律學校發行

第一學年第二十二號目次

憲法（自二三五至二五八）　法學士　竹井耕一郎

民法總則（自第四章至第六章）（自二八三至二九八）　法學士　若槻禮次郎

國際公法（非常）（自一一一至一一八）　法學博士　高橋作衛

經濟學總論（自六五至八〇）　法學博士　金井延

經濟學各論（自三七至五二）　法學士　矢作榮藏

雜報

○授業開始並ニ梅博士ノ訓諭○文官高等（迅速作文）判檢事、特許代理業者試驗問題

090
1902
1-1-22

第二說ニ曰ク法ハ眞正ナル天皇ノ意思ナリ之ニ違フモノハ正當ナル天皇ノ意思ト謂フコト能ハス故ニ違法ノ行爲ニ對シテハ大臣ハ副署ヲ拒ムコトヲ得サルヘカラス是レ畢竟大臣カ其職務ヲ盡ス所以ナレハナリト此說誤ラス此ノ如クスト雖モ大臣ハ權力ヲ以テ君主ト相爭フニ非ス唯法ニ依リテ其輔弼ノ職責ヲ盡スニ外ナラス或ハ曰ハン大臣ノ見解ニシテ誤ルトキハ如何誤レル見解ヲ以テ副署ヲ拒ムハ不當ノ甚シキニ非スヤト固ヨリ然リ然レトモ右述フル所ハ違法ノ場合ナルコトヲ前提トス言ヲ換フレハ大臣ノ見解ノ誤ラサルコトヲ前提トシタルカ故ニ或者ノ云フ如キ批難ヲ生セス若シ君主ノ行爲ニシテ違法ニ非サランカ固ヨリ大臣ノ見解如何ニ拘ハラス副署ヲ拒ムヘキ道理ナシ萬一大臣カ誤レル見解ヲ執リテ强ヒテ副署ヲ拒ムカ如キコトアリトセンカ天皇ハ常ニ官吏任免ノ權ヲ以テ之ニ臨ムカ故ニ第一說論者ノ言フカ如キ國ノ實權カ大臣ノ手ニ移ルノ論結ヲ生セサルナリ

右述ヘタル所ヲ約スルニ立憲制ノ原則トシテ君主自身モ其機關タル大臣モ總テ法ニ從ヒテ行動ス故ニ理論上違法ノ所爲ニ對シテハ大臣ニ副署ノ義務ヲ生

セサルヘキナリ

最後ニ副署ト責任トノ關係ヲ一言セントス或學者ハ曰ク大臣ノ責任ハ副署ニ因リテ生スト此論ハ輔弼ノ權限ト副署トヲ混同セルモノナリ既ニ述ヘタル如ク大臣ノ責任ハ輔弼ノ權限ニ伴ヒテ生ス故ニ縱令副署セサルモ其責任ヲ免ルヘキニ非ス副署ハ天皇ノ行爲ヲ公ニスル手續形式ノ一ニ過キス之ニ據リテ大臣參與ノ實ヲ明カニスルヲ得ト雖モ之ヲ以テ責任發生ノ原因ト看ルヘキニ非ス輔弼ノ權限ハ本ナリ副署ノ手續ハ末ナリ二者ヲ混スルハ誤レリト謂ハサルヘカラス

終ニ臨ミ副署ニ關シテ一問題アリ國務大臣全員ヲ同時ニ任免スル場合ハ其任免ノ勅令ニ何人カ副署スヘキヤノ疑問ナリ實例ニ依レハ後任ノ大臣カ副署ヲ爲スコトトス然レトモ理論トシテハ未タ任免ナキニ既ニ後任ノ大臣アルヘキ道理ナシ隨テ副署ヲ爲スノ途アルヘカラス已ムヲ得サレハ實例ニ反シ前任ノ大臣ヲシテ副署セシムルカ穩當ナランカ即チ此勅令ノ效力トシテ前任者ハ免セラレ同時ニ後任ノ大臣ヲ生スルモノトスヘキニ似タリ

以上ノ所述ヲ以テ憲法第五十五條第一項及ヒ第二項ノ說明ヲ了レリ尙ホ憲法全體ニ亘リ覽ルニ國務大臣ノ職權ニ關スル規定ハ之ニ止マラス今參考ノ爲メニ大體ヲ列擧シ以テ本章ヲ了ラントス

一　輔弼　國務大臣憲法上ノ職權ハ主トシテ此ニ在リテ存ス

二　副署　副署ハ輔弼ノ權限ヨリ生スル形式ナリ但必スシモ相伴ヒテ起ラス

三　帝國議會ノ各院ニ出席シ及ヒ發言スルノ權

憲法第五十四條ニ依レハ國務大臣ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及ヒ發言スルコトヲ得又議院法第四十二條ニ依レハ國務大臣ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但之カ爲メニ議員ノ演說ヲ中止セシムルヲ得サルモノトス尙ホ此權ハ委員會及ヒ協議會ノ場合ニ及フコトハ議院法第四十三條及ヒ第五十七條ニ規定ス

此等ハ勿論發言ニ止マリ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

四　現行法ニ依レハ各省大臣ハ同時ニ國務大臣タルカ故ニ國務各大臣ハ行政長官トシテ政府ノ一部ニ當ルモノトス

五、國務各大臣ハ職權上樞密顧問官タル地位ヲ有シ自ラ會議ニ列席シ發言表決ヲ爲シ或ハ委員ヲ差シテ會議ニ出席シ說明ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ

以上ヲ以テ國務大臣ニ關スル主要ノ說明ヲ爲シ盡セリト考フ

第八章　政府

憲法ニ所謂政府トハ何ソ其意義稍ヤ明確ヲ缺ク或學者ハ曰ク「政府トハ天皇大權行使ノ府ナリ大權トハ親裁ノ政務ニシテ之ニ參與スル機關即チ國務大臣及ヒ樞密顧問ヲ政府ト謂フ」ト此論ハ機關ノ性質ヲ誤解ス憲法上政府ノ職務ハ主トシテ議會ニ對シ又ハ臣民ニ對スル關係ナリ然ルニ國務大臣及ヒ樞密顧問ハ天皇ニ對シ內ニ向ヒテ輔翼スル機關ナリ二者ノ間ニ自ラ權限形式ノ差別ヲ見ルヘシ且此論者ハ何故ニ大權行使ノ府カ政府ニシテ其他行政事務ヲ掌ル官府ハ政府ニ非ストスルヤ毫モ論據トスル所ナシ

予ハ以爲ク政府トハ文字ノ示ス如ク最高行政ノ府ナリ且此ノ如ク解シテ憲法上毫モ支障ナキノミナラス理論上穩當ナリト考フ

最高行政府トハ內閣總理大臣及ヒ各省大臣ヲ主トシテ指稱スルコト固ヨリ論ナシ此等ハ一方ニ於テハ憲法上ノ國務大臣タリ然レトモ此二種ノ權限ハ漫ニ混同スヘカラス

政府ニ關スル詳細ノ說明ハ行政法ノ範圍ニ讓ルヲ至當ナリトス憲法上政府ニ關スル規定ハ甚タ尠キノミナラス此等ハ他ノ場合ト牽連シテ說明シ得ヘキカ故ニ此處ニ於テハ唯政府ノ意義ヲ一言スルニ止メントス

第九章　司法裁判所

憲法第五章ニ司法ノ規定ヲ設ケ其首條ニ曰ク「司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ」ト此條ノ說明ヲ爲スニ方リ三段ニ區別シ先ツ第一段ニ「司法權トハ何ソ」ヲ論セサルヘカラス彼ノ「モンテスキュー」氏以來學者ハ司法ヲ以テ立法及ヒ行政ニ對スル國權ノ區分トシテ說明ス此觀念ハ今日ニ至ルマテ幾多ノ變遷ヲ受ケタリ其初ニ當リテハ國權其レ自身カ立法行政及ヒ司法ノ三ニ分ルル如ク考ヘシモ國權統一ノ理論明白ナルニ至リ三者ハ國權其レ自身カ根

本的ニ區別セラルルニ非ス唯國權ノ作用カ此ノ如ク分ルルニ過キスト爲スニ至レリ然レトモ此觀念モ仍ホ精確ナラス何トナレハ國權ノ作用ヲ其性質ヨリ三分セントスルハ殆ト無效ノ事ニ屬スレハナリ先ツ立法ハ法規制定ノ行爲ナリ司法ハ法ヲ解釋適用スル行爲ナリ而シテ行政ハ法ノ範圍内ニ於ケル施政行爲ナリトセンカ今日ノ法制ヲ説明スルニ於テ何ノ效ナキノミナラス却テ學者ノ疑惑ヲ惹起シ易シ例ヘハ今日ノ法制ニ於テ立法機關ノミ法規ノ制定ヲ掌ルニ非ス又司法機關ノミ法ノ解釋適用ヲ掌ルニ非ス行政機關ト雖モ亦之ヲ爲シ得ヘク畢竟右ノ區別ハ曖昧ニ歸スルヲ免レサルナリ

今日ノ法制ニ於ケル立法行政司法ノ別ハ理論的實質的ノモノニ非ス主トシテ沿革上ノ理由ニ基ケル機關ノ權限形式ノ差別タルニ過キスト看ルヘシ沿革上ノ理由トハ何ソ社會發達ノ必要上司法裁判ノ部分ハ夙ニ獨立ノ地位ニ在リ後議會制度ノ發生スルニ及ヒ立法ノ部分カ亦他ノ行政ノ部分ト區別セラルルニ至リ茲ニ司法立法及ヒ行政ノ區別ヲ馴致シ今日ノ法制ニ於テモ三者各〻形式ヲ異ニスルコトト爲リシナリ

右ノ如ク立法司法行政ノ別ハ機關ノ權限形式ノ別ニ過キストシテ茲ニ其意義ヲ論定セント欲ス先ツ司法ノ意義ニ關スル學説ヲ擧ケン

第一説ニ曰ク司法トハ特定ノ事件ニ對シ法ノ解釋適用ヲ爲スコトヲ主タル目的トスル國家ノ行爲ナリト此定義ハ先ツ司法ヲ立法ト區別シ立法ハ法ヲ制定スレトモ司法ハ法ノ解釋適用ヲ爲スモノトス次ニ司法ヲ行政ト區別シ行政ニ在リテモ法ノ解釋適用ヲ爲スコトアレトモ司法ノ如ク之ヲ以テ主タル目的ト爲スモノニ非ス行政ノ目的ハ常ニ社會ノ安寧幸福ニ在リトス

此論ハ理論的ニ實質ヨリ司法ノ意義ヲ定メントスルモノニシテ前ニ述ヘタル如ク曖昧タルヲ免レス例ヘハ論者モ法ノ解釋適用ハ司法ニ限ラス行政ノ範圍ニモ之アルコトヲ認ム唯行政ニ在リテハ其目的カ社會ノ安寧幸福ニ在リト爲ス然レトモ司法ト曰ヒ行政ト曰フモ畢竟社會ノ安寧幸福ヲ目的トスルニ外ナラス而シテ法ヲ解釋適用スルノ途復タ二アルヘカラス此ノ如ク司法ト行政トノ區別既ニ明カナラス其他推シテ知ルヘシ

第二説ニ曰ク司法トハ法律ニ依リ裁判所カ獨立職權トシテ行フ事件ヲ總稱ス

ト此說ハ實質ヨリシテ司法ノ意義ヲ論定シ難キヲ以テ事件ノ範圍ヲ以テ其意義ヲ定メントス之ニ依レハ民事刑事ノ爭訟事件ノミナラス裁判所ノ取扱フ非訟事件等ノ一切ノ事務ヲ總稱シテ司法ト謂フナリ

此說ハ甚タ漠然ニ失シ純粹ナル司法事務ト行政事務ノ一部トシテ便宜上裁判所カ取扱フモノトノ區別ヲ爲スコト能ハス且裁判所ノ取扱ノ事件ト謂フノミニテハ殆ト何等ノ意義ヲモ爲サヽルナリ

第三說モ形式的ニ定義ヲ試ミテ曰ク國家ノ意思ノ決定ニ當事者カ權利トシテ參與スルヲ得ル事務ヲ稱シテ司法ト謂フト即チ當事者ノ參與ト云フ形式ヲ以テ司法ノ特色ト爲スモノナリ然レトモ此說モ亦不完全ナリ現ニ國法上明カニ司法裁判ト區別セラルル行政裁判ニ於テモ當事者ハ權利トシテ之ニ參與スルコトヲ得ヘキノミナラス此他各種ノ審判制度ニ於テ此形式ヲ取ルモノ亦尠カラス

以上ノ三說孰レモ精確ナル議論ニ非ス此外種種ノ學說ナキニ非ス例ヘハ司法トハ裁判行爲ナリト曰フ者アリ然レトモ裁判ノ司法ニ限ラサルコトハ前述セルカ如シ或ハ司法トハ權利侵害ニ對シテ制裁ヲ加フル行爲ナリト曰フ此說モ亦不完全ナリ何トナレハ例ヘハ行政裁判モ亦主トシテ權利侵害ニ對スルモノナレハナリ或ハ又法規違反ニ對スル裁決ヲ稱シテ司法ト曰フ此說モ一面ニ於テハ廣キニ失シ一面ニ於テハ狹キニ失ス何トナレハ一方ニ於テハ法規違反ノ裁決ハ司法裁判ニ限ラサルト其ニ一方ニ於テハ司法裁判ハ必スシモ法規違反ノミヲ裁定スルニ非ス其他ノ紛爭ニ對シテモ之ニ立入ルコトアレハナリ

右司法ノ意義ヲ定ムルコト固ニ難シ是レ畢竟理論的性質上ヨリ立法行政及ヒ司法ノ區別ヲ立テントスルヨリ來ル困難ナリ予ハ三者區別ノ理論ハ姑ク措キ唯現在ノ法制ニ依リ司法裁判トシテ規定セラルル所ヲ研鑽セントス

憲法ニ依レハ司法裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムトセリ此條ニ依リ裁判所構成法ノ發布アリタリ而シテ同法第二條ニ司法裁判所ノ權限ヲ定ム曰ク「通常裁判所ニ於テハ民事刑事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス」ト此規定ニ依レハ司法ハ主トシテ民事刑事ノ裁判ヲ掌ルト解スヘキカ如シ尙ホ憲法及ヒ此條ノ規定ニ依レハ司

法裁判ニ通常特別ノ二種アリ原則トシテハ民事刑事ノ裁判ハ通常裁判所ニ於テ之ヲ管轄ス唯特別ノ場合ニ種種ノ裁判所ヲ置キテ民事刑事ヲ掌ラシムルコトアリ所謂通常裁判所トハ區裁判所地方裁判所控訴院及ヒ大審院是ナリ所謂特別裁判所トハ軍事裁判所等ノ種類ヲ指稱ス

右ハ構成法ニ於ケル司法裁判ノ意義ナリ何故ニ司法裁判ヲ主トシテ民事刑事ニ限界シタルヤ自ラ其理由アリテ存ス今説明ノ便宜ノ爲メニ各種ノ裁判所ニ於テ取扱フ事件ヲ擧ケ其司法裁判ト異ナル所以ヲ説明スルトキハ歸スル所司法裁判ハ主トシテ民事刑事ニ限ラルルコトヲ知ルヘキナリ

先ツ行政上ノ事件ニ關シテハ主トシテ行政裁判ノ制度アリテ司法裁判ト區別セラルルコトハ憲法第六十一條ノ規定ニ依リ明カナリ曰ク「行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス」ト本條ニ關シテハ三箇ノ問題アリ得ヘシ今序ニ之ヲ略述スヘシ(一)行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル場合ハ總テ訴訟ヲ起シ得ヘキヤ蓋シ憲法ノ條文ハ唯訴訟ヲ起シ得ヘキ場合ノミノ規定ニシテ總テノ場合ニ訴訟ヲ起シ得ルコトヲ定メタルニ非ス現ニ訴訟ヲ許ス場合ハ法律ニ由リ特定セラル(二)此性質ノ訴訟ハ行政裁判所以外ノ裁判所ニ提起スルコトヲ得サルヤ否ヤ蓋シ本條ニ行政官廳云云ノ訴訟ニシテ行政裁判所ニ屬スヘキモノト規定シタルハ原則トシテ此ノ如キ訴訟ハ行政裁判ニ專屬スヘキコトヲ定メタルモノナルヘシ(三)行政裁判所ハ此種ノ訴訟ノミヲ受理スヘキモノナリヤ此點ニ付テハ憲法ノ規定ハ毫モ制限的ニ非ス現ニ此種以外ノ訴訟ニシテ行政裁判ニ依ル場合尠カラス右述ヘタル所ニ依リ憲法第六十一條ハ要スルニ行政裁判ト司法裁判トノ區別ヲ立テ原則トシテ行政裁判ニ屬スヘキ事件ヲ規定シタルモノナリ言ヲ換フレハ行政事件ニ關シテハ原則トシテ司法裁判所ノ管轄スル所ニ非サルナリ

次ニ行政裁判以外ニ於ケル各種ノ行政上ノ裁決ハ總テ行政上ノ機關カ之ヲ掌ルヲ便宜トスルカ故ニ今日ノ制度ハ總テ之ニ依リ司法裁判ハ之ニ干渉セサルナリ其理由ハ(一)行政上ノ便宜ニ通スルハ行政上ノ機關ニ如クモノナシ司法裁

判官ハ此點ニ於テ不十分ナルヲ免レス(二)行政ト司法トハ各機關ハ種類ヲ分チ監督權ノ作用ヲ別ニスルカ故ニ二者相干渉スルハ不便ナルノミナラス二機關ノ間ニ軋轢ヲ生セシムル惧アリ右ノ重ナル二理由ニ據リ行政上ノ事件ハ司法裁判ニ於テ取扱ハサルヲ原則トス

又次ニ權限裁判ニ關シテハ勿論司法裁判所ノ取扱フヘキ所ニ非ス何トナレハ權限裁判所ハ司法機關ト行政機關トノ間ノ爭議ナルカ故ニ此等機關ノ上ニ位スル機關ニ非サレハ不可ナルコト明カナレハナリ

又次ニ特別ノ身分アル者ニ對スル懲戒事件ハ是レ亦別種ノ裁判ヲ必要トス例ヘハ官吏ニ對スル懲戒ハ懲戒委員會ノ裁決ニ依ルカ如シ隨テ懲戒事件ハ司法裁判所ニ於テ取扱フヘキ性質ノモノニ非ス

以上述ヘ來レル所ニ依リ歸スル所司法裁判所ノ權限ハ主トシテ民事及ヒ刑事ニ在ルコトヲ知ルヘキナリ

右ハ憲法第五十七條「司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ」ト規定セル中ニ就キ第一ニ司法ノ意義ヲ說明シタルナリ

次ニ本條ニ所謂天皇ノ名ニ於テ行フトハ何ソ憲法全體ヲ通覽スルニ「天皇ノ名ニ於テ」ト規定スルモノ二アリ一ハ第十七條ノ規定ニシテ攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フトアリ二ハ本條是ナリ畢竟「天皇ノ名ニ於テ」トハ他ヨリ拘束セラルルコトナク直接ニ天皇ノ名ヲ以テスルノ意ナリ攝政ハ直接ニ天皇ノ大權ヲ行フモノナルカ故ニ論ナシ裁判官モ其身分ニ關シテ憲法上ノ保障ヲ有シ他ノ牽制羈束ヲ受ケス法令等ニ依リ嚴正ニ裁決ヲ行フコトヲ得此點ハ普通行政機關ト大ニ異ナレリ普通行政機關ハ上官下官ノ關係及ヒ其他監督權ノ作用等ニ依リ其行爲ハ常ニ牽制ヲ受クルヲ免レス然ルニ司法裁判官ハ法ヲ執リテ一般國民ノ權利利益ヲ左右スルヲ以テ其主タル職務ト爲スカ故ニ其地位行動ハ特ニ憲法ニ依リテ保障セラルルナリ

以上憲法第五十七條第一項第二段ノ略說ナリ次ニ第三段ニ「法律ニ依リ」行フコトヲ定ム此點モ亦議論ノ存スル所ナリ

第一說ハ曰ク「法律ニ依リ」行フトハ裁判所ハ法律ノミヲ解釋適用スルノ意ナリト外國學者ニ此說ヲ採ル者多シ然レトモ法規ヲ定メ人ノ權利義務ヲ定ムルハ

必スシモ法律ノミニ限ラス命令ト雖モ亦然リ然ルニ裁判所ハ法律ノ外解釋適用スルコトヲ得ストスルハ狹隘ニシテ且道理ナキノ論ナリ況ヤ法令不備ノ場合ニ於テモ裁判官ハ之ヲ理由トシテ裁判ヲ拒絶スヘカラサルハ古來ノ原則ニシテ此ノ如キ場合ハ或ハ慣習ニ依リ或ハ條理ニ依リテ判決スヘキ必要アルニ於テヲヤ

第二說ハ曰ク此句ノ意ハ法律ノミ裁判官ヲ羈束スルヲ得命令等ハ羈束ノ效力ヲ有セス何トナレハ裁判官ノ見解如何ニ依リ之ヲ適用セサルヲ得レハナリト此說モ未タ完全ナラス蓋シ是レ畢ニ法律ノミナランヤ命令ト雖モ國法上正當ニシテ有效ナルモノナランニハ裁判官ハ之ヲ適用セサルヘカラス果シテ然ラハ法律ノミ羈束力ヲ有スト云フハ決シテ穩當ナラス

第三說ハ曰ク「法律ニ依リ」トハ判決ノ標準ヲ規定シタルニ非ス裁判ヲ行フ手續ノ規定ナリ即チ法律ヲ以テ定メタル手續ニ依リ裁判ヲ行フト云フニ外ナラスト所謂手續法律トハ民事訴訟法刑事訴訟法ノ如キ是ナリ此說ハ是モ穩當ナルニ似タリ或ハ曰フ裁判手續ノ如キハ法律ヲ以テ定ムルノ必要ヲ見ス例ヘハ勅

令ヲ以テ之ヲ規定スルモ何等ノ支障ナシ故ニ第五十七條ニ所謂「法律ニ依リ」トハ手續ニ關スル規定ニ非スト然レトモ司法裁判ニ關シテハ憲法ハ特ニ鄭重ノ規定ヲ設ケ例ヘハ裁判所ノ構成、裁判官ノ身分、裁判ノ對審判決等主トシテ法律ニ依リテ規定スヘキコトヲ定メ(第五八條、第五九條)左レハ一般ニ裁判手續カ法律ニ由リ規定セラルヘシトスルハ寧ロ至當ノ事ニ屬スルナリ故ニ曰ク第三說ハ最モ穩當ナリト

右ハ憲法第五十七條第一項第三段「法律ニ依リ」行フノ句ヲ解釋シタルナリ之ヲ以テ同條大體ノ說明ヲ了レリト考フ

司法裁判所ノ職權ノ大體ハ以上述ヘタル所ニ依リ明カナリ今ヤ更ニ其內容ニ進ミテ裁判所ノ審査權ニ關スル問題ニ移ラントス詳タ言ヘハ裁判所カ法令ヲ解釋適用スルニ當リ其法令ニ關シ如何ナル程度マテ審査ヲ行ヒ得ヘキヤノ問題ナリ之ヲ論スルニハ法律ト命令トヲ區別シテ觀察スヘシ

(一)法律　法律ノ審査ヲ分チテ形式ノ審査及ヒ實質ノ審査トス

甲(ト)形式ノ審査

甲(イ)法律ノ裁可及ヒ公布ノ形ニ於テ完全ナリヤ否ヤ

此點モ亦テ審査ノ權ナシト論スル者アレトモ此形ニ於テ審査シ得サレハ如何ニシテ其法律タルヲ認メ得ンヤ故ニ審査權アリト論スルヲ至當トス

(ロ)議會ニ於テ協贊シタルモノナリヤ否ヤ

或學説ニ依レハ縱令議會ノ協贊ナクトモ天皇ノ裁可及セ公布ノ手續ヲ經タルモノハ臣民ハ之ヲ遵奉セサルヘカラス隨テ裁判官モ之ヲ適用セサルヘカラス故ニ議會協贊ノ有無ハ之ヲ審査スルコトヲ得スト

此説一理アルニ似タリ然レトモ國法論トシテハ議會協贊ノ手續ヲ經サルモノハ法律ト謂フヘカラス縱令法律ハ裁可ヲ以テ成ルトスルモ裁可ニ至ルノ必要ナル手續トシテ議會ノ協贊ナカルヘカラス嚴格ニ言ヘハ議會ノ協贊ナケレハ裁可モ亦起ルヘカラス若シ裁判官カ此ノ如キモノヲ適用ストセンカ國法上法律ヲ適用スト謂フコト能ハサルナリ故ニ裁判官ハ適用ノ前ニ於テ先ツ其モノカ法律ナルコトヲ確ムル必要アリ之ヲ爲スニハ成立ニ必要ナル手續ヲ具備シタリヤ否ヤヲ審査シ得サルヘカラス故ニ予ハ以爲ク此點ニ關シテハ裁判官ハ審査ノ權ヲ有スト

乙　實質ノ審査　實質ノ審査トハ法律ノ實質カ憲法違反ニ非スヤヲ審査スルヲ謂フ多數ノ學者ハ裁判官ハ形式的ノ審査ハ爲シ得ルモ實質的審査ヲ行フコト能ハストス其理由トスル所蓋シ二アリ(一)裁判官ハ法律ニ由リ羈束セラルルカ故ニ更ニ進ミテ法律自身ヲ審査スル力ナシ(二)憲法ノ解釋ハ天皇ノミ之ヲ爲シ給フヘク裁判官ニ解釋權ナキカ故ニ固ヨリ法律カ違憲ナリヤ否ヤヲ審査スルヲ得スト

此議論ハ果シテ適當ナルヘキヤ否ヤ先ツ第一ノ點ニ於テ裁判官カ法律ニ由リ羈束セラルルハ其言ノ如シ然レトモ裁判官ヲ羈束スルハ國法上正當ナル法律ナラサルヘカラス違憲ノ法律ハ固ヨリ其力ナキヤ理論上明白ナリ隨テ所謂法律カ憲法違反ニ非サルコトヲ確ムル必要アルニ非スヤ言ヲ換フレハ裁判官ハ此點ニ於テモ審査ヲ爲ス必要アルニ非スヤ次ニ第二ノ點ニ於テ憲法ハ天皇ノミ之ヲ解釋スルコトヲ得故ニ裁判官ニ解釋權ナシト云フト雖モ既ニ國務大臣ノ章ニ於テ述ヘタル如ク天皇ノミ憲法ノ解釋ヲ爲スコトヲ得テ其他ハ毫モ躁

ヲ挿ムコト能ハスト論スルハ不可ナリ國務大臣ノ如キモ其職責ヨリシテ天皇ニ違憲ノ行爲ナキコトヲ期シテ輔弼ヲ行ハサルヘカラス之カ爲メニハ亦憲法ノ解釋ヲ爲シ得サルヘカラサルナリ裁判官ハ其取扱フ事件カ主トシテ民事刑事ニ限ラルルカ故ニ直接ニ憲法ノ適用ヲ行フ職權ナシト雖モ其適用スヘキ法令カ果シテ違憲ニ非スヤヲ知ルカ爲メニハ應憲法ヲ解釋スルコトヲ得サルヘカラサルナリ

右述ヘタル所ニ依レハ裁判官ノ審査權ヲ否認スル論者ノ論據トスル所ハ總テ薄弱ナリ畢竟理論トシテハ法律ノ實質的審査ヲ許スヲ至當トスヘキカ但實際ニ於テハ此點ハ殆ト議論ノ必要ナカルヘシ何トナレハ憲法ノ規定ト司法裁判所カ適用スル法律ノ規定トハ自ラ規定ノ範圍ヲ異ニスルカ故ニ二者ノ實質ニ於テ抵觸ノ恐ヲ生スルコト稀ナレハナリ然レトモ實際ハ兎ニ角理論トシテハ此點ニ論及セサルヘカラサルナリ

(二)　命令　命令ノ審査モ亦形式ノ審査及ヒ實質ノ審査ノ二ニ分ツヘシ然レトモ此點ハ詳論スルマクモナク法律ノ審査ニ關シテ述ヘタル所ヲ一層强キ理由ヲ以テ適用シ來ルコトヲ得ヘシ且命令ノ審査ハ命令カ違憲ナリヤ否ヤノ外ニ尙ホ法律違反ニ非スヤ否ヤニ關シテモ之ヲ爲シ得ル場合アルヘキナリ

本章ノ說明ヲ終ルニ臨ミ憲法第五十八條乃至第六十條ヲ一言セントス先ツ裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任シ刑法ノ宣告及ヒ法律ニ由リ定メタル懲戒ノ處分ニ由ルノ外其職ヲ解カルルコトナキモノトス尙ホ裁判手續ニ於ケル對審及ヒ判決ハ原則トシテ之ヲ公開ス但安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得終ニ司法裁判ノ中ニ於テ特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ムルコトトス

第十章　會計檢査院

憲法第七十二條第一項ニ曰ク「國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計檢査院之ヲ檢査確定シ政府ハ其ノ檢査報告ト倶ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ」ト又同條第二項ニハ「會計檢査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム」トアリ

會計檢査院ハ行政法ニ於テ說明シ憲法學ニ於テ說明スル者ナシ然レトモ予ハ大體ヲ說明スル必要アリト考フ其理由ハ(一)會計檢査院ハ憲法ニ於テ其大體ヲ規定セラル(二)行政法ノ範圍ハ主トシテ統治權カ臣民ニ向ヒテ發動スル關係ナリ然ルニ會計檢査院ノ職權ハ大ニ之ト異ナルモノアリト云フニ存ス然レトモ此處ニ於テハ其職權ノ詳細ヲ說明セス唯大體ノ性質ヲ一言スルニ止メントス』

會計檢査院ハ財政監督ノ機關ニシテ天皇ニ直隷シ國務大臣ニ對シテ獨立ノ地位ヲ有ス財政監督ノ方法ハ直接ニ收支ヲ監督スルニ非ス間接ニ提出セラレタル決算ニ依リ之ヲ檢査確定スルニ在リ向ホ職權執行ノ形式ハ

一　檢査　檢査トハ計算ノ當否ヲ査定スル行爲ナリ檢査ヲ要スルモノ大凡次ノ如シ(一)總決算(二)各官廳及ヒ官立諸營造物ノ收支及ヒ官有物ニ關スル決算(三)政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及ヒ公立私立諸營造物ノ收支ニ關スル決算(四)法律勅令ニ由リ特ニ院ノ檢査ニ屬セラレタル事項是ナリ

二　報告書作成　檢査ノ確定ト同時ニ報告書ヲ作成ス報告書ハ一旦政府ニ提出シ更ニ帝國議會ニ回付ス

三　成蹟上奏　各年度會計檢査ノ成蹟ハ之ヲ上奏ス其成蹟ニ付キ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏ス

四　判決　出納官吏ノ計算書及ヒ證憑書類ヲ正當ナリト判決シタルトキハ認可狀ヲ付與シ其效果トシテ責任ヲ解除ス若シ不當ナリト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分セシム

以上ノ略說ヲ以テ本章ヲ了リ之ト同時ニ第四編機關論ヲ終結セント欲ス

第五編　統治作用論

第一章　總論

第一編ヨリ第四編ニ至ルマテ統治權ニ關スル大體ノ觀念統治ノ主體即チ天皇統治ノ客體即チ臣民及ヒ統治ノ機關ヲ順ヲ逐ヒテ說明シ來レリ最後ニ統治ノ作用即チ統治權カ如何ニシテ行ハルルカヲ說明セント欲ス

統治權行使ノ方法ヲ立法、行政、司法ノ三ニ分ツ者アリ或ハ大權、立法、行政、司法ノ四ニ區別スル者アリ然レトモ此等ノ區別ハ未タ適當ナラス先ツ立法、行政及ヒ

司法ノ區別ハ前ニ述ヘタル如ク理論的ニ其性質ヨリ區別スルコト難シ畢竟形式的ノ區別ニ過キスト看做スヘキナリ此ノ如ク看做スモ統治權行使ノ概括的區別トシテハ尚ホ不完全ノ點アルヲ免レス何トナレハ憲法ニ所謂大權ハ統治權行使ノ方法ニ於ケル重要ナル部分ナルニ拘ハラス此區別ニ依リテハ其統レニ屬スルカ又ハ此區別ノ外ニ在ルカヲ知ルコト能ハサレハナリ或學者ハ大權ハ統治作用ノ全部ヲ包含スルモノナルカ故ニ統治作用ノ種別トシテ論スヘカラス畢竟統治作用ノ種別トシテハ立法行政及ヒ司法ノ三ヲ以テ足レリトスト論ス然レトモ予ハ大權ヲ以テ天皇親裁ノ政務トシ統治作用ノ一形式トシテ論スルカ故ニ立法行政及ヒ司法ノミノ區別ハ不完全ナリト考フ果シテ然ラハ他ノ一派ノ論者ノ如ク大權立法行政及ヒ司法ノ四種別ヲ採ランカ是レ亦不完全タルヲ免レス先ツ大權ト立法トハ相對シテ分チ得ヘキモノニ非ス何トナレハ立法モ亦天皇親裁ノ事務ニシテ明カニ大權ノ一部ナレハナリ次ニ大權ト行政トヲ區別スルモ亦疑義ナキニ非ス何トナレハ行政ヲ以テ全タ天皇ノ親裁ニ出ツルモノニ非スト斷定スヘキ論據ハ不十分ナレハナリ

以上述ヘタル所ニ依リ現今有力ナル二種ノ學說ハ孰レモ不完全ノ譏ヲ免レス予ハ妨ク自己ノ考フル所ニ據リ形式的ノ區別ヲ試ミント欲ス

抑モ一國ノ政務ニ於テ其性質ヨリ天皇ノ親裁ヲ必要トスルモノアリ又根本的ニ其性質カ然ルニハ非サルモ便宜上天皇ノ親裁セラルルモノアルヘシ此等ハ即チ天皇親裁ノ政務ト稱スルヲ得ヘシ其他ノ政務ハ總テ之ヲ親裁シ給ハ統治ノ體用ハ天皇ノ總攬シ給フ所ナリト雖モ萬般ノ政務ハ總テ之ヲ親裁シ給フコト能ハサルコト勿論ナリ故ニ性質上親裁ヲ要スル事務ノ外ハ之ヲ機關ニ委任シテ行ハシムルヲ妨ケス此等機關ニ委任スル事務ヲ稱シテ非親裁ノ政務ト謂フ今項ヲ分チテ此種ノ事務ノ大體ヲ說明セント欲ス

第一節　親裁ノ政務

天皇親裁ノ政務ハ憲法上之ヲ大權ト稱ス大權ニ關スル學說ハ必スシモ一致ナラス或ハ曰ク大權トハ天皇ノ尊榮ニ伴フ特權ナリト或ハ曰ク天皇カ自己ノ保セル權利ナリト此等ノ說ハ其意義甚タ漠然タリ先ツ天皇ノ尊榮ニ伴フ特權ト

ハ如何ナルモノヲ云フカ臣民ノ有スル能ハサル特別ノ權利ト云フノ意カ果シテ然ラハ統治權全部ハ天皇ノ特權即チ大權ナルノミナラス其他天皇ニ特別ナルモノハ總テ大權ト稱セサルヘカラス然レトモ大權ノ意義此ノ如ク廣漠ナラサルヤ明カナリ次ニ天皇ノ留保權ナリト云フハ天皇ト人民ト統治權ヲ占有スルノ觀念ニシテ天皇カ人民ニ割讓セスシテ自己ニ留保スル部分カ大權ナリト云フナリ此觀念ノ不可ナルコト固ヨリ論ナシ何トナレハ統治權ノ不可分ハ既ニ說述セル如キノミナラス我國法上明カニ天皇カ悉ク統治權ヲ總攬シ給フコトヲ規定スレハナリ

此他大權トハ天皇ノ政治權ナリト曰フ者アレトモ是レ亦漠然タリ政治事務ノ全部ヲ云フノ意ナラハ次ニ述フル學說ト異ナラス別ニ論スルノ必要ナシ

我國學者ニ左ノ說ヲ爲ス者アリ曰ク天皇ハ國家ノ機關ニシテ國家ノ統治權ヲ總攬スル權限ヲ有ス此權限ヲ稱シテ大權ト謂フ國家ノ權利キシラフ之ヲ統治權ト謂ヒ天皇ノ權限トシテハ之ヲ大權ト謂フト

此說ノ根據ハ天皇ヲ國家ノ機關ナリト爲スニ在リ然レトモ既ニ屢述ヘタル如

法律ハ期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ初日ヲモ算入スヘキモノト爲シタリ（第一四〇條但書）午前零時ナル瞬間ニ於テ事實ヲ發生セシムルカ如キハ稀有ノ場合ニ屬スヘキカ故ニ法律ニ於テ特ニ此ノ如キ場合ニ對スル例外ヲ設クルノ必要アルヤ否ヤハ予ノ疑ヲ存スル所ナリト雖モ立法者カ其必要アリトシテ此ノ如キ例外規定ヲ設ケタル以上ハ例外規定ノ特性トシテ之カ適用ハ敷衍スルコトヲ許サス故ニ期間カ午前零時ヲ過クル僅ニ數分ノ後ヨリ始マル場合ト雖モ該但書ハ之ヲ適用スルコト能ハサルモノナリ

二　期間ノ滿了

（イ）時ヲ以テ期間ヲ定メタルトキハ即時ヨリ起算シ期間トシテ定メタル時間ヲ經過シタルトキヲ以テ期間ノ滿了トス

（ロ）日ヲ以テ期間ヲ定メタルトキハ起算日（事實ノ起リタル日ノ翌日）ヨリ計算シ期間ノ末日ニ相當スル日ノ終了シタルトキヲ以テ期間ノ滿了トス（第一四一條）

（ハ）週月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタルトキハ日數ニ依ラス曆ノ定ムル所ニ從

ヒタ之ヲ算ス(第一四三條第一項)例ヘハ土曜日ニ於テ契約シ七週間ト定メタルトキハ次週ヨリ七週目ノ週ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トスヘク、明治三十五年五月三十一日ニ於テ契約ヲ爲シ三箇月ノ期間ヲ定メタルトキハ六月ヨリ三箇月目ナル八月ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トスヘク又明治三十四年十二月三十一日ニ於テ契約ヲ爲シ五箇年ノ期間ヲ定メタルトキハ明治三十五年ヨリ五箇年目ナル明治三十九年ノ終了ヲ以テ期間ヲ滿了ト爲スヘキカ如シ

週月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ週月又ハ年ノ初ヨリ期間ヲ算セサルトキハ期間ハ最後ノ週月又ハ年ニ於テ其起算日(事實ノ起リタル日ノ翌日)ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了スルモノトス例ヘハ月曜日ニ於テ契約シ五週間ト云ヒタルトキハ次週ヨリ五週目ノ週ノ月曜日ヲ以テ期間滿了シ、明治三十五年六月九日ニ於テ契約シ十箇月後ト云ヒタルトキハ次ノ月ヨリ十箇月目ニ當ル月即チ明治三十六年四月九日ヲ以テ期間滿了シ三年後ト云ヒタルトキハ次ノ年ヨリ三箇年目ニ當ル年即チ明治三十八年ノ六月九日ヲ以テ期間滿了ス(第一四三條第二項本文)

月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ於テ應當日ナキトキハ最後ノ月ノ末日ヲ以テ滿期日ト爲スヘキモノトス例ヘハ明治三十四年十二月三十日ニ契約シ二箇月ノ期間ヲ定メタルトキハ其翌月ヨリ二箇月目ナル二月ニ於テ三十一日ナルモノナキヲ以テ二月二十八日ヲ以テ滿期ト爲ササルヘカラス又閏年ノ二月二十八日ニ於テ契約シ二箇年後ト云ヒタルトキハ次年ヨリ二箇年目ノ二月ニハ二十九日ナキヲ以テ其年二月二十八日ヲ以テ滿期日ト爲スヘキモノトス(第一四三條第二項但書)

期間ノ滿了ニ付キ說明ヲ終ルニ先チ二箇ノ問題ヲ決セサルヘカラサルモノアリ第一ハ取引時間アル場合ニ於テハ期間ハ滿期日ノ取引時間ノ經過ヲ以テ滿了スルモノナルヤ否ヤノ問題ニシテ第二ハ滿期日カ大祭日、日曜日等ニ相當スルモ尙ホ其月ヲ以テ期間ハ滿了スルモノト爲スヘキヤ否ヤノ問題ナリ

第一ノ問題ニ付テハ取引時間アルトキハ自ラ其時間中ニ非サレハ請求又ハ履行ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ其時間ノ經過ヲ以テ期間ノ滿了ト爲スコト相當ナリト雖モ我邦ニ於テハ未タ一般ニ取引時間ヲ定ムルカ如キ慣習ナキヲ以テ

民法ハ取引時間ノ經過ヲ以テ期間ノ滿了ト爲スコトヲ認メス但銀行ノ取引時間ニ關シテハ法律ニ於テ既ニ規定スル所アリ其他ノ商業ニ在リテモ慣例上自ラ取引時間ノ定マリタルモノアルヲ以テ商法ハ商事ニ付テハ法令又ハ慣習ヲ以テ取引時間ノ定アルトキハ其取引時間內ニ限リ債務ノ履行ヲ爲シ又ハ其履行ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲シタリ(商法第二八三條)

第二ノ問題ニ付テハ休日ニ於テハ請求又ハ履行ヲ爲スコト能ハサルヲ常トスルヲ以テ滿期日カ休日ナルニモ拘ハラス期間滿了スルモノトセハ其結果ハ殆ト期間カ一日短縮セラレタルニ異ナラサルヘシ是レ稍ヤ嚴ニ過クルモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テ法律ハ期間ノ末日カ大祭日、日曜日其他ノ休日ニ當ルトキハ期間ハ其翌日ヲ以テ滿了スヘキモノト爲シタリ(第一四二條但第百四十二條ハ「其日ニ取引ヲ爲ササル慣習アル場合ニ限リ」タルカ故ニ此ノ如キ慣習ナキトキハ滿期日カ大祭日、日曜日等ニ相當スルモ期間ハ其日ヲ以テ滿了スルモノナリ

第六章　時效

第一節　總則

第一款　時效ノ性質

時效トハ一定ノ要件ノ下ニ時ノ經過ニ因リ權利ヲ取得シ又ハ之ヲ喪失スルヲ謂フ蓋シ社會ノ狀態ハ多年平穩ニ繼續スルトキハ之ニ依リテ一種ノ秩序ヲ生スルモノナルカ故ニ强テ其狀態ヲ變更スルハ社會ノ秩序ヲ破リ取引ノ安全ヲ害スルモノナリ故ニ時效ナルモノヲ設ケ多年繼續シタル狀態ハ之ヲ確定ノモノト爲シ以テ社會ノ秩序ヲ維持シ取引ノ安全ヲ確保スルハ公益上必要ノ事ト爲ス而シテ時效ノ爲メ權利ヲ喪失スルニ至リタル者ニ在リテモ之ニ對シテ甚シク不平ヲ訴フルコト能ハサルヘシ何トナレハ何時ニテモ其權利ヲ實行スルコトヲ得ルニモ拘ハラス時效ノ成就スルマテ拋擲シテ顧ミサリシハ法律ノ保護ヲ求ムルニ意ナカリシモノナリト看ラルルモ之ヲ辯スルニ辭ナカルヘキヲ以テナリ

時效ハ多年繼續シタル事實ヲ認メテ權利ト爲スモノナリ隨テ時效ナルモノハ時ニ事實ヲ以テ權利ノ上位ニ置クモノナリ故ニ實際ノ利害ヲ關ハスー二重キヲ理論ニ置ク學者ハ事實カ權利ニ勝ルコトヲ以テ理解スヘカラサルノ事ト爲シ無權利ノ行爲ハ時ノ經過ニ因リ有權利ノ行爲ト爲ルヘキモノニ非サルヲ以テ時效ニ因リ權利ヲ得又ハ義務ヲ免ルト言フハ正義ヲ無視スルモノナリトノ議論ヲ爲ス然レトモ時效ナルモノハ社會公益上ヨリ生シタル制度ニシテ吾人ハ時效ナル制度アルカ爲メニ多年繼續シタル事實ヲ以テ自己ノ權利アルコト又ハ義務ナキコトヲ證スルコトヲ得ルモノナリト雖モ若シ此制度ナクシハ吾人ハ自己ニ權利アルコト又ハ義務ナキコトヲ證スヘキ材料ナキノ一事ニ因リ時ニ廢紙ニ歸シタル古證文ヲ利用シ吾人ノ權利ヲ侵シ又ハ吾人ニ義務ヲ强フル姦猾ノ徒ニ向ヒテ何等ノ對抗ヲ爲スコト能ハサルノ窮境ニ陷ルナキヲ保セス時效ナルモノハ實ニ一二怠慢ナル權利者ノ利益ヲ犧牲トスルモノナリト雖モ之ニ依リテ多數者ノ利益ヲ保護スルモノナリ佛國學者カ「時效ハ人類ノ保護者ナリ」(Prescriptio est patrona generis humani)ト稱贊シタルハ稍ヤ賞揚ニ過クト雖モ能ク其公益上ノ必要制度ナルコトヲ明カニシタルモノト謂フヘシ

無權利ノ行爲カ時ノ經過ニ因リ有權利ノ行爲ト爲ルコトヲ以テ正義ノ觀念ニ反スト信スル者ハ時效カ權利得喪ノ原因タルコトヲ否認シ之ヲ以テ權利ヲ得喪シタル推定ニ過キスト爲ス推定說ヲ主張スル論者中ニ於テモ之ヲ以テ單純ナル法律ノ推定(presomption juris tantum)ト爲シ反對ノ證據ヲ擧クルヲ許スモノト之ヲ以テ絕對ナル法律ノ推定(presomption juris et de jure)ト爲シ反對ノ證據ヲ擧クルヲ許ササルモノトノ二者アリ

時效ヲ以テ權利得喪ノ推定ト爲シ之ニ對シテ反對ノ證據ヲ許スヘシト爲ス學說ハ時效ナル制度ヲ認メサル議論ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ反對ノ證據ナキ限ハ法律ハ常ニ現在ノ狀態ヲ以テ眞實ナリト推定スルモノナルヲ以テ現狀ニ依リテ權利ヲ推定スルコトハ必スシモ時效ナル制度ヲ待ツモノニ非サルヲ以テナリ特ニ時效ニ對シテ反對ノ證據ヲ許スモノトセハ多年繼續シタル平穩ナル狀態ハ常ニ姦猾ノ徒ノ爲メニ攪亂セラルルノ虞アリテ社會ノ秩序ハ之ヲ保維スルコト能ハサルヘシ時效ヲ認メタカラ多年繼續シタル平穩ナル

狀態ヲ保ツコト能ハストセハ之ヲ認メサルト何等擇フ所ナキナリ

時效ヲ以テ權利得喪ノ推定ト爲シ之ニ對シテ反對ノ證據ヲ許サヽル推定ハ我舊民法ノ採リタル主義ナリ然レトモ反證ヲ許サヽル推定ナルモノハ必ス之ニ從ハサルヘカラサルモノナルカ故ニ之ヲ推定ト稱スルハ唯用語上ノ便宜ニ過キス其實一種ノ法律規定ニ外ナラス特ニ舊民法ノ如ク當事者ノ意思ノ善惡ニ因リ取得時效ノ期間ニ差違ヲ設ケナカラ時效ヲ以テ推定ナリト爲スハ主義ニ於テ矛盾アリト謂ハサルヲ得ス之ヲ沿革ニ徵スルニ羅馬ニ於ケル usucapio ハ權利取得ノ方法ニシテ praescripio longi temporis ハ所有權回復ノ訴訟ニ對スル抗辯方法ナリシナリ而シテ今日各國ニ於テ行ハルル時效ナルモノハ殆ト皆羅馬ニ於ケル praescripio ノ轉化シタルモノニ外ナラサルヲ以テ歷史上ヨリ觀ルモ時效ハ權利得喪ノ推定ニ非スシテ其原因ナリト爲サヽルヘカラス

時效ハ之ヲ取得時效消滅時效ノ二種ニ區別スルコトヲ得取得時效トハ一定ノ年間物ヲ占有シ又ハ權利ヲ行使スルコトニ因リテ其物ノ所有權又ハ其行使シタル權利ヲ取得スルヲ謂ヒ消滅時效トハ一定ノ年間權利ヲ行使セサルカ爲メ

其權利ヲ喪失スルヲ謂フ

時效ハ之ヲ豫定期間 (delai, prefixe) ト混同スヘカラス豫定期間ナルモノハ法律カ定メテ以テ權利ヲ行使スヘキ期間ト爲シタルモノナルヲ以テ其期間內ニ權利ヲ行使セサルトキハ權利ハ消滅ニ歸スルモノナリ此點ニ於テハ頗ル消滅時效ニ類似スル所アリト雖モ立法ノ趣旨ニ於テ大ニ異ナル所アリ法律カ豫定期間ヲ設クルハ法律關係ノ速ニ確定スルコトヲ期スルカ爲メ權利者ヲシテ成ルヘク速ニ其權利ヲ實行セシメンカ爲メナリ故ニ此期間ハ法律ノ定メタル以外ニ伸長スルコトヲ許サヽルモノナリ之ニ反シテ時效ナルモノハ當事者カ多年權利ヲ實行セサル爲メ社會ニ一種ノ秩序ヲ生シタルトキ此現狀ヲ確定スルノ趣旨ニ出ツタルモノナリ故ニ當事者ニシテ權利ヲ實行スルカ又ハ相手方ノ權利ヲ承認スルトキハ其現狀ヲ確定スルコトヲ要セス即チ時效ハ中斷又ハ停止ニ因リテ其期間ヲ伸長スルコトヲ得ルモノナリ

第二款　時效ノ效力

時效ハ權利得喪ノ原因ナルヲ以テ其效力ハ權利ヲ發生シ又ハ之ヲ消滅セシムルニ在ルモノナリ即チ時效ノ效力ハ一定ノ年間物ヲ占有シ又ハ權利ヲ行使シタル者ヲシテ其物ノ所有權又ハ其行使シタル權利ヲ取得セシメ一定ノ年間權利ヲ行使セサル者ヲシテ其權利ヲ喪失セシムルモノナリ

時效ハ權利得喪ノ原因ナリト雖モ當事者カ之ヲ援用スルニ非サレハ裁判所ハ之ニ依リテ裁判ヲ爲スコトヲ得サルモノナリ（第一四五條）蓋シ時效ナルモノハ社會ノ必要上設ケタル制度ナリト雖モ元來時ノ經過ナル一事ヲ以テ權利ナキ者ヲシテ權利ヲ得セシメ義務アル者ヲシテ義務ヲ免レシムルモノナルヲ以テ之ニ因リテ權利ヲ得又ハ義務ヲ免レタル者ハ自ラ願ミテ心ニ快トセサルコトナキヲ得ス故ニ他ニ防禦方法ヲ有ネル以上ハ成ルヘク時效ヲ援用スルコトヲ欲セサルハ當事者ノ心情ナリト謂ハサルヘカラス當事者ノ心情既ノ如クナルニモ拘ハラス裁判所カ强テ時效ヲ援用シテ其權利ヲ得タルコト又ハ義務ヲ免レタルコトヲ斷定スルハ保護厚キニ過キテ却テ當事者ニ逃遁ヲ與フルモノナリ故ニ法律ハ時效ヲ援用スルト否トヲ以テ全ク當事者ノ良心ニ一任シ裁判所

ヲシテ進ミテ之ヲ援用スルコトヲ之ヲ禁シタリ畢竟中ニハ時效ヲ以テ公益上ノ必要ニ出テタル制度ナリト爲シナカラ裁判所ヲシテ進ミテ之ヲ援用スルコトヲ得サラシムルハ條理一貫セスト批難スル者アリト雖モ公益上時效ヲ必要トスルハ當事者ヲシテ之ヲ援用シテ現狀ヲ維持スルコトヲ得セシムルニ在リ當事者ノ意思ニ反シテ之ヲ援用スルハ必要ノ程度ヲ超脫スルモノナリ故ニ裁判所ヲシテ時效ヲ援用スルコトヲ得サラシムルモ之ニ因リテ時效ノ公益制度タルコトヲ害スルモノニ非ス此事タル佛伊民法ノ其ニ規定スル所ニシテ我舊民法モ亦此主義ヲ採用シタリ

時效ハ當事者之ヲ援用スルニ非サレハ裁判所之ニ依リテ裁判ヲ爲スコトヲ得サルモノナリト雖モ之カ爲メ時效ヲ援用スル權利ヲ以テ當事者ニ專屬スル權利ナリト爲スヘカラス第百四十五條ハ裁判所ニ對シ其進ミテ時效ヲ援用スルコトヲ禁シタルノミ當事者ノ外ハ之ヲ行フコトヲ得スト爲シタルニ非ス時效ヲ援用シテ達セントスル目的ハ財產權ノ取得又ハ消滅ニ在ルカ故ニ之ヲ援用スル權利ハ專ラ金錢上ニ關スル權利ナリ金錢上ニ關スル權利ハ當事者ニ專屬

スルモノニ非ス故ニ其權利ハ承繼人ニ移轉スルハ勿論債權者モ亦第四百二十三條ノ規定ニ從ヒ之ヲ行フコトヲ得ベキハ疑ヲ容レサル所ナリ

時效ノ效力ヲ說明シ終ルニ臨ミ其效力ハ何レノ時ヨリ發生スルヤニ付テ一言セサルベカラス時ノ經過カ權利得喪ノ原因ナリトセハ時效ノ效力ハ期間ノ滿了シタル時ニ發生スルコト當然ナルカ如シト雖モ若シ此ノ如クナリトセハ時效ナル制度ヲ設ケ多年平穩ニ繼續シタル狀態ヲ以テ確定ノ法律關係ト爲シ以テ社會ノ秩序ヲ保タントシタル趣旨ヲ達スルコト能ハサルヘシ何トナレハ時效ニ因リ權利ヲ得ルモ時效成就前ニ於テ取得シタル果實ハ之ヲ返還セサルベカラス又時效ニ因リ義務ヲ免ルルモ時效成就前ニ支拂スベカリシ利子ハ之ヲ弗濟セサルベカラス而シテ其果實又ハ利子ノ額ハ時ニ甚タ巨額ニ上リ或ハ元本ニ超ユルカ如キ場合ヲモ生スルコトアルヘクシテ之カ履行ハ容易ニ非ス爲メニ多年繼續シタル狀態ハ大ニ攪亂セラルルニ至ルヘキヲ以テナリ故ニ時效ナル制度ヲ採用スル以上ハ同時ニ亦其效力ハ遡及力ヲ有スルモノト爲シ以テ多年繼續シタル狀態ノ平穩ニ確定スルコトヲ計ラサルベカラス第百四十四條カ「時效ノ效力ハ其起算日ニ遡ル」ト爲シタルハ此趣旨ニ出ツルモノナリ佛國民法ノ如キハ此ノ如キ明文ヲ有セサルモ學者ハ殆ト皆其遡及力アルコトヲ疑ハサルモノノ如シ

第三款　時效ノ拋棄

時效ハ法律カ必要トシテ設ケタルモノナルヲ以テ公ノ秩序ニ關スル制度ナリ故ニ當事者ノ意思ヲ以テ豫メ其利益ヲ拋棄スルコトヲ得サルモノトス（第一四六條）取得時效ニ付テハ當事者カ豫メ其利益ヲ拋棄スル場合ハ殆ト之ヲ想像スルコトヲ得スト雖モ消滅時效ニ付テハ當事者カ契約ヲ爲スニ當リ其契約ヨリ生スル權利ハ時效ニ因リテ消滅セサルコトヲ豫約スル場合ナシトセス此ノ如キ場合ニ於テ若シ其豫約ヲ以テ有效ナルモノナリトセハ債權者ハ自己ノ債權ヲ確保スル手段トシテ常ニ此ノ如キ附約ヲ爲サンコトヲ提議スベク債務者ハ一方ニ於テハ之ヲ承諾セサルトキハ契約ヲ締結スルコト能ハサルニ至ルヲ恐レ他ノ一方ニ於テハ之ヲ承諾スルモ期限ニ至リテ履行スレハ何等ノ痛痒ナシ

ト信シ容易ニ之ヲ承諾スヘシ而シテ其結果他日必要ノ場合ニ於テハ多クハ時效ヲ援用スルコト能ハサルニ至ルヘシ此ノ如キハ時效ナル制度ヲ設ケ一定ノ年間繼續シタル狀態ハ之ヲ攪亂セシメサランコトシタル法律ノ趣旨ハ全ク廢滅ニ歸スルモノナリ故ニ法律ハ豫メ時效ノ利益ヲ拋棄スルコトヲ禁シ以テ當事者ノ意思ヲ以テ公ノ秩序ニ關スル制度ヲ左右スルコトナカラシメタリ

當事者ハ豫メ時效ノ利益ヲ拋棄スルコト能ハサルノミナラス豫メ法定ノ期間ヨリ長キ時效ヲ定ムルコトモ亦之ヲ契約スルコト能ハサルモノナリ何トナレハ此ノ如キ契約ハ法律ノ定メタル時效ノ利益ノ一部ヲ拋棄スルモノナルノミナラス若シ此ノ如キ契約ヲ許ストキハ當事者ハ百年又ハ千年等ノ時效ヲ設ケ以テ實際ニ於テハ豫メ時效ノ利益ヲ拋棄シタルト同一ノ結果ニ至ラシムヘキヲ以テナリ

第百四十五條ハ豫メ時效ノ利益ヲ拋棄スルコトヲ許サスト雖モ既ニ成就シタル時效ノ利益ヲ拋棄スルコトハ同條ノ禁スル所ニ非ス故ニ當事者ハ法定ノ時效期間ヲ經過シタル後其利益ヲ拋棄スルコトヲ得ルハ勿論其期間中ト雖モ既

ニ經過シタル期間ノ利益ヲ拋棄スルハ何等ノ妨ナキモノナリ蓋シ時效カ公益上必要ナリト謂フハ當事者ヲシテ時效ヲ援用シテ多年繼續シタル現狀ヲ維持スルコトヲ得セシムルニ在リ事實ニ於テ當事者カ之ヲ援用スルヤ否トハ公ノ秩序ト關係アルコトナシ法律ノ强制スヘキ所ノモノハ當事者ヲシテ未タ成就セサル時效ノ利益ヲ拋棄セシメサルニ在リ既ニ成就シタル時效ノ利益ヲ援用セス又ハ之ヲ拋棄スルハ當事者ノ自由ニシテ法律ノ干涉スヘキ所ニ非サルカリ

時效ハ財產權ノ取得又ハ消滅ノ原因ナルヲ以テ其利益ヲ拋棄スル法律行爲ハ財產權ヲ目的トスル法律行爲ナリ故ニ債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リナカラ時效ノ利益ヲ拋棄シタルトキハ債權者ハ之カ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ルモノニシテ第百四十五條ノ規定ハ第四百二十四條ノ適用ヲ妨クルモノニ非サルナリ

第四款　時效ノ中斷

時效ノ中斷トハ時效ノ成就前ニ於テ既ニ經過シタル期間ノ利益ヲ消滅セシムルモノナリ故ニ中斷アリタルトキハ時效ハ其時ヨリ更ニ新シキ進行ヲ始ムルモノナリ

第一　時效中斷ノ原因

時效ハ自然及ヒ法定ノ兩原因ニ因リテ中斷セラルルモノナリ自然ノ中斷トハ事實ニ因リテ生スルモノニシテ法定ノ中斷トハ法律行爲又ハ公權ノ作用ニ因リテ生スルモノナリ

甲　自然ノ中斷

自然ノ中斷ナルモノハ主トシテ取得時效ニ付テ存スルモノナリト雖モ消滅時效ニ付テモ亦全ク之ナキニ非ス

一　取得時效

(イ)　所有權　所有權ノ取得時效ニ付テハ占有者カ其占有ヲ喪失スルトキハ其喪失ハ占有者ノ任意ノ中止ニ因ルト將タ他人ノ爲メニ奪ハレタルニ因ルトヲ問ハス時效ハ中斷セラルルモノトス(第一六四條蓋シ取得時效ナルモノハ後ニ

トヲ得

諸文明國ノ法ニ依ルニ其臣民ノ外國就役ハ此國ノ中立ヲ危タスルトノ理由ニ依リ嚴酷ニ處罰セラルヘキモノナリ然レトモ其箇人ト其對抗スル國トハ單ニ敵對關係アルニ止マルモノト看ルヘキモノナリ(此點ハ中立ノ法理研究上必要ナレハ注意ヲ要ス)

千七百九十八年十月二十九日ノ佛國拘留宣言ニ於テ佛國ハ諸中立國人民カ敵國ノ委任ヲ受ケタ敵對行爲ヲ爲シ又ハ敵國船ニ乘組ムトキハ海賊犯トシテ犯罪ニ處スヘキコトヲ宣言セリ然レトモ此宣言ハ歴史上比類ナキ殘酷ノ主義ニシテ佛國自身ハ斯ル宣言ヲ爲セシニモ拘ハラス自ラ北米獨立戰爭ノ際又千八百六十一年ヨリ同六十五年ニ至ル米國内亂ノ際自國人民カ外國ノ軍務ニ就役セルヲ默認セリ

第九　船舶所有者ノ國性

此國性ハ主トシテ次ノ原則ニ依リ確定ス(ホルランド第三一條)船舶所有者ノ商業上ノ定住ハ船内書類ニ依リテ確メ又ハ造船ノ契約ニ依ルコトアリ又ハ其船

ニシテ最近ニ賣買セラレタルモノナルトキハ賣買契約ニ依リテ定ム此外船長ノ證言ハ船舶所有者ノ定住地ノ有力ナル決定材料トス

第二章　物ノ敵性ノ決定

敵國貨物トハ何ンヤ換言スレハ物ノ敵性ハ何ニ依リテ決定スヘキヤハ戰時國際法ニ於テ最モ重要ナル問題ナリ何トナレハ巴里宣言中ニアル敵國貨物ハ如何ナル物ナルカヲ解釋スル根柢的ノ問題ニシテ又敵國私有財產ハ捕獲免除ナル海上國際法上未決ノ大問題ノ根柢的ノ疑問ナルヲ以テナリ

試ニ「デビス」カ敵國財產及ヒ敵國財產トシテ視ルヘカラサルモノトシテ擧ケタル所ヲ記セン(「デビス」三七四頁參照)

(a) 敵地ニ定住ヲ有スル者ノ財產ハ敵國財產ニシテ中立國ニ定住ヲ有スル者ノ財產ハ中立貨物ナリ

(b) 敵地ノ產出物及ヒ製造物ハ其所有者ノ如何ニ拘ハラス敵國財產ナリ

(c) 敵地ニ定住地ヲ有スル組合又ハ會社ノ株ニシテ中立國人ニ依リ所有セラルルモノモ亦敵國財產ナリ

(d) 中立地ニ在ル商店又ハ製造場ノ所有者ニシテ定住ヲ敵國ニ有スルモノハ其中立國ニ在ル建物ヨリ生スル利益ハ敵性ヲ有ス

(e) 敵國國旗ノ下ニ航海スル中立國船舶又ハ敵國ノ特許ニ依リ航海スルモノハ敵船ナリ

(f) 物ノ敵性ハ拿捕ノ當時ノ所有者ニ依リ決定セラル其後ニ所有者ヲ變更スルモ法律上何等ノ變動ヲ生セス

(g) 未開地探險北國測量船ノ如キハ敵國船ト雖モ敵性ヲ免ル

(h) 漁業船ハ敵性ヲ有セス

日本ノ法律ニ於テ敵國船トシテ取扱フモノ左ノ如シ

一　運送船トシテ敵國政府ノ雇入レタル船舶但其雇入カ敵國政府ノ脅迫ニ依レルトキ亦同シ

二　敵國ノ旗章及ヒ通航券ヲ有スル船舶

三　敵國政府ノ免許狀ニ依リ航海スル船舶

四　何レノ國籍ニ屬スルヲ問ハス敵國軍艦ノ保護ノ下ニ航海スル船舶

五　縱令船舶書類ハ帝國同盟國若クハ中立國ノ船舶ナルモ一部又ハ全部敵ノ所有ニ係ル船舶

六　外見ハ帝國同盟國若クハ中立國ニ住所ヲ有スル人ノ所有船舶ナルモ其船舶ハ出港後ニ敵ヨリ買受ケタルモノニシテ尚ホ進航中ニ在リ未タ其人ノ占有ニ歸セサルモノ

七　外見ハ帝國同盟國若クハ中立國ニ住所ヲ有スル人ノ所有船舶ナルモ若シ其所有者開戰後若クハ開戰前豫メ開戰ヲ慮リテ該船舶ノ所有權ヲ敵ヨリ得タルモノナルトキハ取引ノ善意ニシテ且既ニ完結セル證明ノ充分ナルコトヲ要ス

以上敵國財產ノ一二例ヲ擧ケタルカ是ヨリ財產ノ敵性ヲ決定スル標準ヲ研究セン(「ウォルカー」一一二頁乃至一一九頁參照)

第一　敵國ノ支配ノ下ニ在ル一箇人ノ財產ハ敵性ヲ得ルモノトス

茲ニ一財產アリ之ニ對シ一交戰國カ其作戰上合法ノ利用ヲ爲シ得ル狀況ニ在ルトキ即チ財產カ一交戰國ノ支配ノ下ニ在ルトキハ他交戰國ハ此財產ヲ敵國貨物ト視ルコトヲ得故ニ戰時公法ニ於テハ財產ノ性質ヲ決定スルニ其所有者ノ國籍ニ依ラス又專ラ所有者ノ定住地ニモ依ラス主トシテ財產ノ所在地ニ依ルヘキモノトス故ニ一箇人ニテモ其財產上ノ權利ニ關シテハ二ノ國性ヲ有スル財產ト爲ル(「ウォルカー」一一三頁參照)左レハ「ザー、ヴォルター、スコット」ハ「ヨング、クラシナ」號事件ニ於テ判決シテ曰ク一箇人モ二國ニ商業上ノ關係ヲ有スルコトヲ得而シテ商人トシテ生活スルトキハ此等ノ國ニテ爲セル行爲ニ關シテハ二國ノ人民トシテ取扱ハルヘシト(「ホルランド」モ其捕獲規程第二十六條ニ規定シテ曰ク「一箇人モ種種ノ商行爲ニ付キ二ノ商業的定住ヲ有スルモノト看做サルルコトヲ得」ト「ツー、ブラザース」事件)

第二　敵地ノ商店ニ在ル財產ハ縱令中立國ニ在ル中立國人ニ依リテ所有セラルルモノトヽ雖モ敵性ヲ有ス

戰時公法上財產ノ國性ハ其所在地ニ依リ決定スルカ故ニ中立國ニ在ル中立國人ノ所有財產ニテモ敵國財產ト看做スコトハ「ビシランタ」號事件「ホルトランド」

號事件ハルモニー」號事件ニ依リテ之ヲ證明スルコトヲ得

第三　敵地又ハ占領地ノ產物ハ其所有者ノ國籍ノ何タルヲ問ハス敵性ヲ有ス」

千八百三年「フェニックス」號事件ハ其適例ナリ此船舶ハ和蘭領ノ「フリナム」ノ產物ヲ和蘭ニ輸送セリ而シテ其產物ノ所有者ノ定住ハ中立國ニ在リシモ之ヲ和蘭ノ貨物トシテ敵性ヲ與ヘタリ「サー、ウォルター、スコット」曰ク土地ノ所有ナル事實ハ產物ニ關シ其土地所有者ニ該地ノ國性ヲ與フルモノナリ而シテ其所有者ノ現定住地ノ何レニ在ルヲ問ハスト又「アンナー」カタリナ」號事件ニ於テ「サー、ウォルター、スコット」氏ノ判決スル所ニ依レハ敵地ニ於ケル產出物ハ縱令平時ニ積込ミタルモノト雖モ敵性ヲ有ス何トナレハ其土地ノ所有者トシテ彼ハ其永久ノ運命ヲ土地所在國ト同シウシ隨テ其土地ノ產出物ノ關係ニ於テハ敵性ヲ有セシムヘキヲ以テナリ

第四　敵國國旗ヲ掲ケ又ハ其特許狀ヲ有スル船舶ハ他ノ交戰國ヨリ敵ト看做サルルモノトス

前ニ掲ケタル「アンナー」カタリナ」號事件ニ於テ敵國ノ土地產出物ハ敵ト運命ヲ同シウスルトノ理由ニ依リ判決ヲ下シタルカ「サー、ウォルター、スコット」ハ更ニ其主義ヲ敷衍シテ曰ク平時又ハ戰時ニ敵國ノ國旗及ヒ通航券ヲ使用スルモノハ一切之ヲ敵船ト看做スヘク而シテ何等ノ例外ヲ認メスト

第五　敵國護送船ノ下ニ在ル中立國船舶及ヒ貨物ハ英國主義ニ依リテハ敵性ヲ有ス

米國高等裁判所判事「ストーリー」カ千八百十五年「チライド」號事件ニ付キ多數判事ニ反對セル意見ハ英國主義ヲ明瞭ニ述ヘタルモノナリ曰ク敵國護送船ハ其下ニ在ル一切ノ船舶ニ對スル臨檢搜索等ニ反抗スヘキモノニシテ中立國船舶モ亦同シク之ヲ庇護スルコトヲ得而シテ斯ル保護ヲ受クル中立國船舶ハ之ヲ船舶ト看做スヘキナリ但其船舶ニシテ敵國護送船ノ列ヲ離ルルトキハ敵船タル性質ヲ失フコトヲ得ルモノトス然レトモ單ニ敵國護送船ノ下ヲ去ルトノ意思ヲ宣言セシノミニテハ現在引續キ護送船ノ下ニ在ル事實ヲ取消スコトヲ得ス且此場合ニ注意セサルヘカラサルハ中立國船舶カ敵國ノ護送船下ニ隱ルルハ他交戰國カ武力ヲ以テ壓制スルマテハ臨檢搜索等ニ服セサルコトヲ宣言ス

ルニ同シキコト是ナリト雖モ之ハ米國ノ外交家ハ之ト説ヲ異ニシテ中立國船舶ハ敵國護送船ノ下ニ隱ルルコトヲ得ルモノト爲セリ即チ英國對和蘭ノ爭議ニ依ルニ千八百十五年ヨリ千八百三十年マテ凡ソ二十年間米國政府ハ自國船舶カ英國護送船ノ下ニ隱レテ「バルチック」海ニ通商ヲ爲スコトヲ正當ト爲シタリ然ルニ和蘭ハ之ヲ非トシ米國船ヲ捕獲セシカ米國ハ之ニ反抗シ結局和蘭ハ米人ニ賠償ヲ爲セリ但此時和蘭ハ法理上ノ問題ニ付テハ決定ヲ爲スコトヲ留保シテ自國ハ法理上正當ナルヘキモ唯賠償ヲ支拂フ旨ヲ宣言セリ

第六　敵國ノ武裝的商船上ニ在ル中立貨物ハ敵國護送船ノ下ニ在ルモノト同シ

英國船「ファンニー」號ハ委任狀ヲ所持シ十七門ノ大砲ヲ載セテ航海ニ從事セリ然ルニ千八百十四年四月十七日「リオ」ヨリ「リバープール」ニ至ル海上ニ於テ米國ニ依リ拿捕セラレタリ此船中ニハ葡萄牙人ノ貨物ト英國人ノ貨物ヲ搭載シタリ然ルニ其拿捕ノ後直チニ英國船「セプトル」號ニ依リ再捕獲セラレタリ此時和ヲヤ此ノ如ク勤勞ナルモノハ之ヲ全ク占有スルコトヲ得サルカ故ニ通常貨物ノ如ク完全ナル所有權ノ範圍内ニ屬スルモノトハ大ニ其趣ヲ異ニスルモノナリ隨テ勤勞カ所有權ノ目的物ト爲ルヲ得ルヤ否ヤハ法令上一問題タルヲ得ルモノナレトモ之ヲ抽象的ニ觀察スレハ所有權ノ範圍内ニ屬スルモノナリト謂フヲ得サルニ非ス但之ニ對スル所有權ハ極メテ不完全ナリト謂ハサルヘカラス

(ハ)　有利關係トハ人又ハ貨物ニ對スルノ關係ニシテ之ヲ有スル者ニ利益アルモノナリ此關係ヲ外物ト區別シテ財貨ノ一種ト認定スルニハ多少心ノ抽象力ヲ要ス(二八)

(二八)　有利關係トハ或人ニ屬スル關係ニシテ人ニ對スルモノアリ貨物ニ對スルモノアリ人ト貨物トノ兩者ニ對スルモノモアリ此關係ハ即チ一種ノ財貨ナリ然ルニ關係ハ無形ノモノナルカ故ニ之ヲ他物ト區別シテ財貨ナリト看做スニハ人若クハ貨物ヨリ分離シテ想像セサルヘカラス是レ其心ノ抽象力ヲ要スル所以ナリ此種ノ經濟上ノ財貨ハ之ヲ三種ニ分チテ述フルヲ便利

トス蓋スルハ過ル大ナル誤謬ノ源泉ナリ財貨ニ關スル三種ニ從テ生ズルモノトス

(い)自由交通ヨリ起ルモノ　自由交通ヨリ生スル有利關係トハ法令ノ規定ニ依リテ始メテ起ル所ノモノニ非スシテ經濟社會ニ於ケル人類ノ自由活動ニ因リ自然ニ生ズル所ノ關係ヲ謂フ例ヘハ商人ノ得意ノ如キ他人ニ對スル有利ノ關係即チ是ナリ元來此ノ如キ關係ハ人爲ニ因リテ起リ金錢ヲ以テ賣買、讓與スルヲ得ルモノニシテ優ニ財貨タルノ性質ヲ有セリ(二九)

(二九)自由交通トハ法令ノ保護若クハ奬勵等ノ力ニ依リ起ルモノニ非スシテ人類ノ經濟上ニ於ケル自由活動ヨリ生スル交通ニシテ此自由交通ヨリ起ル關係ヲ(い)種ノ有利關係トス例ヘハ商人ノ得意ノ如キ即チ是ナリ得意ナルモノハ敢テ法令ノ力ニ依リテ起ルモノニ非スシテ商人ノ勉勵ト誠意トニ因リテ生スルモノナリ而シテ得意ハ之ヲ有スル商人ノ他人ニ對スル無形ノ關係ナルモ其有無多少ハ大ニ商業ノ盛衰榮枯ヲ來スモノナレハ是レ亦一種ノ財貨タルヲ得ルモノナリ隨テ之ヲ賣買、讓與スルコトヲ得ルモノトス現今商業ノ最モ進歩シタル英國ニ在リテハ得意ノ賣買、讓與盛ニ行ハレ之ニ關スル紛糾ヲ生スルコト屢之アリ從來我國ニ於テハ得意ノコトヲ株ト稱シ其賣買、讓與ハ往往目擊セル所ナリ即チ彼ノ暖簾ヲ分ツト云フコトハ得意ノ讓與ニ該ルモノナリ例ヘハ久シク商家ニ召使ハレ商業上ノ伎倆ト經驗トニ富ミ相當ノ年齢ニ達シタル者ニハ主人ノ許ヲ得テ主家ト同一ノ屋號ヲ名乘リテ同種ノ店ヲ出スコトヲ得セシメ加之其主人ハ自分ノ得意先ニ對シ自家ニ久シク召使セタル某ヲシテ此度何處ニ商店ヲ開カシメタルニ付キ爾來自分ト同樣ノ愛顧ヲ受ケ度旨ノ廣告ヲ爲スコトアリ然ルトキハ世間ノ人ハ此新店ニ對シ主家ニ對スルト同一ノ信用ヲ以テ商用ヲ命スルニ至ルヲ以テ全ク獨立シテ新店ヲ開ク者ニ比スレハ商業上ノ繁盛ヲ來スコト頗ル大ナリトス是レ即チ得意ノ讓與ナリ故ニ得意ハ一種ノ財貨タル性質ヲ有スルモノナリト謂ハサルヘカラス現ニ東京ニ於テモ三河屋又ハ伊勢屋等ノ屋號ヲ有スル商店ノ數十戸アルハ蓋シ得意ノ賣買、讓與ニ由リテ生シタルモノナラン

(ろ)經濟上ノ特別關係ニシテ法律ニ依リテ經濟交通多少制限サレ而シテ後

始メテ財貨タルノ性質ヲ得ルモノ即チ特別保護專賣特許ノ如キモノヲ謂フ

(三〇) 法律カ或制限ヲ設ケテ一般經濟交通ヲ多少束縛シ之ニ依リ或特定ノ人ヲシテ他ノ人ニ比スレハ利益アル關係ヲ得セシムルコトアリ例ヘハ或物品ノ專賣特許權ヲ得タル者アルトキハ獨リ其者ノミ之ヲ製造販賣シ又ハ特許權其モノヲ賣買讓與スルコトヲ得他ノ者ハ同種ノ物品ヲ製造販賣スルコトヲ得サルノ制限ヲ受クルモノトス此ノ如ク法律カ他ノ者ニ加フル制限ハ特許ヲ得タル者ニ對スル保護トシテ彼ハ之ニ依リテ有利ノ關係ヲ得ルモノナリ此ノ如キ有利ノ關係ハ即チ財貨タル性質ヲ有スルモノナリ

(は) 人生ノ必要ニ應スル公共的ノ事業ヲ終始怠ナク規則正シク遂行スルカ爲メニ設ケラレタル諸種ノ制度文物(三一)

(三一) 人生ニ必要缺クヘカラサル或事業ヲ永久ニ間斷ナク施行スルヲ目的トシテ設ケラレタル制度文物殊ニ公利公益ニ關スル施設ハ其主タル性質一種ノ關係ニシテ經濟上ノ財貨ナリ例ヘハ國家又ハ地方團體又ハ此等ニ關スル制度文物ノ如キ即チ是ナリ國家ハ固ヨリ財貨以上ノモノナレトモ之ヲ經濟上ヨリ觀察スレハ一種ノ財貨タルモノナリ何トナレハ國家存立ノ基本ハ其事務カ秩序正シク行ハルルニ在リ而シテ其事務カ整然トシテ行ハルルハ人類ニ取リテ必要缺クヘカラス人類ハ之ニ依リテ始メテ種種ノ欲望ヲ滿タシ安堵生活スルコトヲ得ルモノナレハナリ然レトモ國家ハ單ニ財貨トシテ存在スルノミニ非ス此他種種ノ資格アルハ勿論ナリ國家カ一種ノ財貨タルト同一ノ理由ニ由リ地方團體又ハ諸種ノ公共事務ヲ施行センカ爲メ設ケラレタル制度組織ハ悉ク經濟上ノ財貨ナリ又半官半民ノ資格ヲ有シ公利公益ヲ目的トシ文明ノ程度ニ依リテ財貨タルモノト然ラサルモノトアリ赤十字社ノ如キハ此類ニ屬ス

右三種ノ有利關係ヨリ生スル一種ノ權利ハ之ヲ更ニ(に)ノ下ニ財貨ト看做スヲ可トス

(に) 所有權其他ノ權利ニシテ第三者ノ勤勞貨物等ニ對スル請求權ヲ與フル

モノ例ヘハ契約ニ基ク權利ノ如キモ亦一種ノ財貨ト看做サザルヘカラス

(三)　所有權ヲ除キタル他ノ權利ニシテ第三者ノ勤勞又ハ貨物ヲ請求シ得ル權利モ亦財貨ナリトス然レトモ其性質ハ他ノ財貨ト大ニ異ナル所アルヲ認メサルヘカラス

目的ヲ財貨ハ以上述ヘタル種類ニ漏ルルモノナカルヘシ此等ノ種類ヲ表ニテ示セハ左ノ如シ

- 財貨
  - 內界ノ財貨
  - 外界ノ財貨
    - 自由財貨
      - 絕對的自由財貨
      - 相對的自由財貨
    - 經濟上ノ財貨
      - 人的財貨
        - 人其モノ
        - 勤勞
      - 貨物
      - 有利關係
        - 自由交通ヨリ生スルモノ
        - 法律上ノ制限ニ基クモノ
        - 公共ノ組織ニ由レル秩序的關係
        - 或種類ノ權利

第三章　價直(一)

(一)　價直トハ獨逸語ニテ「ウエルト」(Werth)ト云フモノニシテ英語ニテ「バリユウ」(Value)佛語ニテハ「バロール」(Valeur)ト云フ然レトモ此英佛ノ語ハ獨逸語ノ「ウエルト」ト少シク其意味ヲ異ニシ寧ロ價直ノ一種タル價格ニ相當セリ故ニ價直ナル語ヲ強テ英語ニ譯スルトキハ「ウオース」ヲ以テ最モ適當ナリトス從來我國ニ於テハ價直ト價格トヲ同一ノ意義ニ用ヒ兩語トモ均シク金錢ニ見積リタル價ニ用ヒラレタルモ本章ニ用フル價直ノ語ハ價格ヨリモ廣キ意味ヲ有スルモノニシテ獨逸語ノ「ウエルト」ニ相當スルモノナリ英國ニテハ價直ニ適當ナル語ナク「バリユウ」ナル語ヲ用フレトモ是レ獨逸語ノ「ウエルト」ト少シク其意義ヲ異ニシ價直ノ一種ナル價格ト同一ノ意味ヲ表ハスニ過キス故ニ價直ハ强テ之ヲ英語ニ譯スレハ「ウオース」ト云フヲ適當ナリトス主觀的ニ抑モ價直トハ之ヲ有スル財貨カ人類經濟上ノ目的ヲ達スルニ足ル所ノ性質ニシテ人ノ認識スル所ノモノナリ換言スレハ價直トハ人ノ認メテ以テ其欲望ヲ

滿足スルニ適當ナリト爲ス所ノ財貨ノ性質ナリ而シテ此性質ハ之ヲ他ノ財貨
或人ノ欲望ヲ滿足スルニ適當ナル性質ト比較スルニ非サレハ之ヲ明カニスヘ
カラス故ニ價値ハ財貨固有ノ性質其モノニ非スシテ此性質ヲ人類カ主觀的ニ
認識スルニ由リテ生スルモノナリ(二)

(二) 價値トハ財貨カ人ノ欲望ヲ滿タスニ足ルノ性質ニシテ人ノ認識スル所
ノモノナリ故ニ價値ハ總テ主觀的ノモノナリト謂ハサルヘカラス但人ニ依
リ價値ヲ分チテ主觀的價値ト客觀的價値トノ二者ト爲ス者アレトモ其所謂
主觀的價値トハ自己一人ノミカ認ムルモノヲ謂ヒ客觀的價値トハ世間一般
ノ人ノ認ムルモノヲ謂フモノナルヲ以テ結局價値ハ總テ主觀的認識力ニ依
リテ成立スルモノナリトノ原理ハ動カスヘカラサルモノナリ然リ而シテ此
ノ如クシテ成立スル價値ノ大小高低ヲ定ムルニハ二箇以上ノ財貨ヲ比較ス
ルヲ要ス例ヘハ水カ渴ノ欲望ヲ滿タスノ力ハ之ヲ酒カ同欲望ヲ滿タスノ力ニ
比シテ始メテ之ヲ明カニ知リ得ルカ如シ

第三章　財貨

其レ然リ而シテ人類ノ主觀的認識ハ種種ノ財貨ニ對シ相異ナルコト種種ノ財
貨カ人ノ欲望ヲ滿足セシムルノ程度大ニ異ナルト同樣ナレハ價値モ亦種種ノ
財貨ニ對シ相異ナラサルヲ得ス故ニ種種ノ財貨ニ附著スル所ノ性質ヲ精査比
較シテ始メテ眞正ノ價値ヲ知ルヘキナリ(三)

(三) 眞正ノ價値ヲ知ルニハ財貨ニ附著スル性質ヲ精密ニ吟味シ之ヲ相互ニ
比較スルヲ要ス何トナレハ各種ノ財貨ハ悉ク同一ノ欲望ヲ滿タスモノニ非
ス其之ヲ滿タス程度互ニ相異ナリ隨テ人ノ主觀的認識モ各種ノ財貨ニ對シ
相異ナルモノナレハナリ

價値ヲ分チテ二ト爲ス曰ク第一、利用價値第二、交換價値是ナリ

第一　利用價値(一)ニ之ヲ效用價値又ハ使用價値ト謂フ(四)

(四) 利用價値ヲ效用價値又ハ使用價値トモ謂フ然レトモ此三ツノ語ハ何レ
ヲ用フルモ意味ニ於テハ同一ナリ予ハ姑ク利用價値ノ語ヲ用フ

利用價値トハ一種ノ財貨カ直接ニ人類ノ利用ニ適スル性質ニシテ此財貨ノ所
有者若クハ之ヲ所有セント欲スル者自身或ハ社會一般カ此種ノ財貨カ其欲望
ヲ直接ニ滿タスニ足ルヲ認ムルニ因リテ生スルモノナリ(五)

(五) 財貨カ直接ニ人ノ利用又ハ使用ニ適スル性質ヲ有シ此性質ヲ人カ認ムルニ因リテ利用價直ナルモノ生ス然リ而シテ此性質ヲ認ムル者ハ當該財貨ヲ所有シ若クハ所有セントスル或特定ノ人ナルコトモアレハ社會一般ノ人ナルコトモアリ

此利用價直ヲ細別シテ二トス即チ(甲)具象的利用價直(乙)抽象的利用價直是ナリ

(甲) 具象的利用價直(一ニ之ヲ特別的利用價直ト謂フ)

具象的利用價直トハ或人ニ特別ニシテ且直接ノ利用價直ナリ即チ或財貨ノ所有者若クハ之ヲ所有セント欲スル者カ或種類ノ財貨又ハ或特定ノ時ニ際シ其特定ノ分量カ自己ノ欲望ヲ滿タスニ適當ナルヲ認ムルニ因リテ成立スルモノナリ(六)

(六) 具象的利用價直ヲ特別的利用價直トモ謂フ然レトモ二語孰レヲ用フルモ差支アルコトナシ唯學問上ノ用語トシテハ寧ロ具象的利用價直ト謂フヲ可ナリトスルニ過キス此種ノ價直ハ或特定ノ人ニ依リテ其直接ニ利用ヲ與フルヲ認メラルルニ因リテ生スルモノナリ即チ財貨ノ所有者又ハ之ヲ所有セント欲スル者カ自己ノ欲望ヲ滿タスニ適當ナルヲ認ムルカ又ハ或特別ノ場合ニ其財貨ノ特定ノ分量ヲ自己ノ欲望ヲ滿タスニ適當ナリト認ムルニ因リテ具象的利用價直ヲ生ス故ニ此價直ノ生スル場合ニハ同一ノ財貨ニシテ或人ニハ利用ヲ與フルヲ認メラルルモ他ノ人ニハ認メラレサルコトアリ例ヘハ骨董品ノ如キハ骨董好ノ人ニハ其好奇心ヲ滿タスニ足ルヲ十分認メラルルモ他ノ人ニハ之ニ依リ何等ノ欲望ヲモ滿タスニ足ルコトヲ認メラレサルカ如キ是ナリ

(乙) 抽象的利用價直(一ニ之ヲ一般的利用價直ト謂フ)(七)

(七) 此二ツノ語モ亦孰レヲ用フルモ可ナリ唯抽象的利用價直ノ方學問上ノ語トシテハ一層適當ナルノミ

抽象的利用價直トハ一種ノ財貨カ其性質上人類一般ノ或欲望ヲ滿タスニ適當ナルヲ世人一般ヨリシテ認メラルルニ因リテ成立スルモノナリ(八)

(八) 或財貨カ人ノ或欲望ヲ滿タスニ足ルヲ一般ノ人ニ認メラルルトキハ抽象的利用價直ナルモノ生ス例ヘハ水ノ如キハ此種ノ價直ヲ有スルモノ

トス即チ水ハ渴シタルトキニ之ヲ飲タハ欲望ヲ滿タスニ足ルハ何人モ之ヲ認ムル所ナレハナリ但非常ノ好酒家ニ在リテハ渴ヲ醫スルハ酒ニ若クナシトスル者或ハ之アルヘシト雖モ是レ例外ニ屬スルモノニシテ世人ハ一般ニ水カ渴ノ欲望ヲ滿タスニ足ルヲ認ムルカ故ニ水ハ抽象的利用價直ヲ有スルモノナリト謂ハサルヘカラス然リ而シテ價直ハ人ノ認識ニ因リテ生シ認識ハ時勢ニ依リテ異ナルカ故ニ常初一ノ財貨カ或特定ノ人ニノミ利用ヲ與ヘ具象的利用價直ヲ有スルモ世ノ風潮變移シテ世人一般カ其價直ヲ認ムルニ至ルトキハ具象的利用價直變シテ抽象的利用價直ト爲ルモノトス流行品ノ如キ即チ是ナリ例ヘハ骨董品ノ如キハ具象的利用價直ヲ有スルモノナルモ流行ニ由リ世人一般カ之ヲ愛スルニ至ルトキハ隨テ抽象的利用價直生スルモノナリ而シテ又之ト同一ノ理ニ據リ始ハ抽象的利用價直ヲ有セシモノカ具象的利用價直ノミヲ保存スルニ至ルコトアリ例ヘハ往昔流行シタル疏上下ノ如キハ當時ニ在リテハ抽象的價直ヲ有セシモ今日ノ燕尾服時代ニ至リテハ單ニ具象的利用價直ヲ存スルニ過キス

第二　交換價直

交換價直トハ一種ノ財貨カ他ノ財貨ト交換シ得ルニ適當ナル價直ナリ(九)即チ舊派經濟學者ノ多數カ直チニ價直其モノト混同スル所ノモノナリ

(九)舊派經濟學者ノ多數ハ交換價直ハ即チ價直ニシテ交換價直ヲ措キテ別ニ價直ナルモノアルコトナシト斷定シ二者ヲ同一ニ看做シ利用價直ヲ認メス然レトモ價直ヲ有スル財貨ニシテ交換シ得ヘカラサルモノアルハ爭フヘカラサル所ナリ蓋シ交換シ得ヘカラサル財貨ニ二種アリ其一ハ性質上交換スルコト能ハサル財貨ニシテ內界ノ財貨ノ如キハ之ニ屬ス例ヘハ茲ニ正直ノ爺父アリ此爺父ヲシテ金庫ノ監守ヲ爲サシムルトキハ盜難ヲ防タヲ得ルヲ以テ此正直ナル性質ハ即チ財貨ニシテ價直ヲ有スルモノナレトモ此ノ如キ內界ノ財貨ハ之ヲ有スル人ニ專屬シ之ヲ交換セントスルモ能ハサルモノナリ故ニ交換價直ヲ有セス其二ハ性質上交換スルコト能ハサルニ非サルモ他ノ財貨ノ代リニ之ヲ受取ル者ナキニ由リ交換シ得ヘカラサル財貨タルモノナリ例ヘハ骨董品ノ如キハ之ヲ他ノ財貨ト交換セントスルモ買主若

クハ受取人ナキコトアルカ如シ英國富派ノ學者ハ此二種ノ如キ財貨ニハ價直ナシト爲セリ故ニ彼等ハ價直ノ意義ヲ解スルコト狹キニ失シタルモノト謂ハサルヲ得ス抑モ交換價直ナルモノハ畢竟間接ノ利用價直ニシテ唯一時其利用ヲ猶豫サレ居ルニ過キサルモノトス何トナレハ交換ノ目的ハ交換シテ得タルモノヲ以テ各自ノ欲望ヲ滿タサントスルニ在レハナリ即チ甲ニ於テ無用ナリトスルモノヲ乙ニ於テ有用ナリトシテ受取リ乙ニ於テ無用ナリトスルモノヲ甲ハ有用ナリトシテ受取ルモノナリ然ラハ其交換セラルヘキモノハ利用價直アルモ一時其利用ヲ猶豫サレタルノミ此ノ如ク人ノ欲望ヲ滿タスヲ得ヘキ財貨アリテ而シテ之カ價直ヲ認ムルニ由リ交換ノ起ルモノナレハ利用價直アリテ始メテ交換價直アリト謂ハサルヘカラス此理ヲ知ラント欲セハ先ツ交換價直ハ如何ナル條件ノ下ニ成立スルヤヲ知ラサルヘカラス

交換價直ノ成立條件三アリ左ノ如シ

(甲)　利用價直アルヲ要スルコト(一〇)

(一〇)　利用價直アリテ始メテ交換價直アリ利用價直ヲ離レテ交換價直カ單ニ存在スルモノニ非ス何トナレハ毫モ人ノ欲望ヲ滿タスニ足ラサルモノハ恩惠的ニ出ツル例外ノ場合ヲ除キテハ決シテ賣買交換セラルルコトナケレハナリ然レトモ前ニ述ヘタルカ如ク利用價直ニハ抽象的ノモノト具象的ノモノトノ二種アルヲ以テ世間一般ノ人カ見テ以テ利用價直ナシトスル物ノ賣買二三ノ人ノ間ニ行ハルルコトアラハ是レ當事者各自ニ取リテハ利用價直アルモノナリ世間一般ノ度外視スル所ニシテ單ニ二三ノ人ノ間ニ行ハルル骨董品ノ賣買ノ如キハ之カ一例ナリ故ニ交換價直ノ成立ニハ必スヤ先ツ利用價直アルヲ要スルモノトス

(乙)　交換價直ヲ有スル財貨ヲ獲得スルニハ必ス勞力ヲ提供スルカ若クハ他ニ報酬ヲ與フルヲ要スルコト(一一)

(一一)　交換價直ヲ有スル財貨ヲ得ルニハ自ラ働クカ又ハ働クニ相當スル丈ノ報酬ヲ與フルヲ要ス若シ然ラサルモノハ交換價直アルコトナシ故ニ彼ノ自由財貨タル空氣ノ如キハ之ヲ得ルニ何等ノ報酬ヲ要セサルヲ以テ

交換價値ナキモノナリ但空氣ト雖モ潛水者カ器械ニ依リ之ヲ使用スルトキハ經濟上ノ財貨ト爲ルヲ以テ交換價値ヲ生スルモノトスヒイヤシクモ

(丙)　交換價値ヲ有スル財貨ヲ全ク所有シ賣買讓與スルハ法令ノ認許スル所タルヲ要スルコト(二二)

(二二)　法令カ賣買讓與ヲ認許セサル財貨ニハ交換價値ナシ故ニ奴隷ノ賣買ヲ法令上禁止スル文明諸國ニ於テハ奴隷ハ實際存在スルコトアルモ是レ社會ノ裏面ノ事ニシテ經濟學ハ公然之ヲ認ムルコトナク之ヲ以テ交換價値ヲ有スルモノト爲サス

右述ヘタル所ニ據レハ交換價値ヲ有スルモノハ通常經濟上ノ財貨ナリ然レトモ自由財貨モ亦前掲ノ三條件ヲ具備スルトキハ交換價値ヲ有シ得タルニ非ス

(二三)　交換價値ヲ有スルモノハ通常經濟上ノ財貨ナレトモ總テノ經濟上ノ財貨ハ必ス交換價値ヲ有スルモノナリト爲スヲ得ス之ニ反シテ自由財貨モ亦前掲ノ三要件ヲ具フルトキハ交換價値ヲ有スルモノト爲ル例ヘハ潛水者

素ハ即チ資本ナリト唱道スルニ至レリ是ニ於テカ資本ナル語ハ收得ノ手段タル意義ノ外ニ生產ノ手段タル貨物ヲモ第四ノ觀念ヲ表示スルニ至レリ此生產ノ手段タル貨物ヲ觀念ハ貨物ノ生產ヲ論スルニ當リテハ重要ナレトモ收益ノ手段タル貨物ヲ他ノ觀念ハ貨財ノ分配ヲ論スルニ當リテ缺タヘカラサルモノナルカ故ニ第三及ヒ第四ノ資本ニ關スル二ノ觀念ハ現今廣ク經濟學者ノ是認スル所タリ而シテ收得ノ手段タル貨物全體ハ生產ノ手段タル貨物トハ多少其範圍ヲ異ニス社會全體ヨリ觀レハ貨物收得ハ新貨物ヲ生產スルコトニ因リテノミ爲スコトヲ得ルカ故ニ社會ノ眼ヨリ觀レハ收得ノ手段ハ生產ノ手段ト一致ス然レトモ一箇人ハ消費貨物ヲ他人ニ貸出スコトニ因リ新貨物ヲ取得スルコトヲ得ルカ故ニ社會的取得手段ハ社會的生產手段ナリト雖モ箇人的收得手段ハ必スシモ箇人的生產手段ノミニ限ラレサルナリ故ニ現今經濟學ニ所謂資本ナル語ニハ收得手段タル貨物ト生產的手段タル貨物トノ二ノ意義アリテ各箇ノ包括スル貨物ノ範圍モ亦同シカラサルナリ

第三　資本ノ內容

資本ヲ觀念中ニ包含セラルヘキ貨物ノ種類左ノ如シ

一　土地改良　堤防排水路等ノ如キモノハ勿論　二　各種ノ生產的建築物　仕事場、工場鐵道等　三　道具、器械其他ノ生產的器具　四　生產ノ用ニ供セラルル畜類　五　生產ノ原料及ヒ補助原料　六　生產者及ヒ商人ノ貯藏スル成功品　七　貨幣

一號ヨリ五號マテハ何人モ異論ナカルヘシト雖モ六號、七號ニ付テハ多少疑ヲ抱ク者アルヘキヲ以テ茲ニ數言ヲ費スノ必要アリ　六號ニ付テハ多少疑ヲ抱ク者アルヘキヲ以テ茲ニ數言ヲ費スノ必要アリ　商人ノ倉庫中ニ藏スル消費貨物ハ最早成功貨物ト稱スヘキモノニシテ中間ノ生產物即チ資本ニ屬セサルモノナルカ如シ又貨幣ハ交換ノ道具ニシテ生產ノ道具ニ非サルカ如シト雖モ精密ニ考察スルトキハ二者共ニ資本中ニ算入スヘキモノナリ何トナレハ凡テ貨物ハ最後ノ消費者ノ手ニ歸スルニ非サレハ生產

手續ヲ完了シタルモノト謂フヘカラス然ルニ生產者若クハ商人ノ貯藏スル成功品ハ生產手續ノ半途ニ在ルモノナルカ故ニ中間生產物即チ資本ニ外ナラサルナリ又交換ト稱スル行爲ハ生產ニ著手シタル時ヨリ生產物カ最後ノ消費者ノ手ニ達スルマテノ一階段換言スレハ生產的活動ニ外ナラサルナリ而シテ貨幣ハ此ノ如ク交換ト稱スル生產的活動ヲ爲スノ要具ナルカ故ニ當然資本ナリ　觀念中ニ包含セラルヘキモノナリ

又他ノ方面ヨリ觀察スレハ貨物ハ必スシモ之ヲ消費スル地方ニテ生產セラルルモノニ非ス一層都合好キ外國事情ヲ利用センカ爲メニ他所ニ於テ生產セラルル場合尠カラス而シテ此時ニ當テリハ生產カ技術的ニ終了シタル後其生產物ヲ消費スル場所マテ運搬スルコトヲ要スルモノナリ而シテ此運搬終了スルニ非サレハ生產手續ハ完了シタリト謂フコトヲ得サルナリ而シテ此他所ニテ生產スルハ迂回的生產法ノ一種ニ外ナラス此種ノ迂回的生產法ハ孤立經濟ニ於テモ狹隘ナル範圍內ニ於テ實行セラルル場合尠カラス例ヘハ農夫ハ佳良ナル生產ノ條件ヲ利用センカ爲メニ半里程ノ耕地ニ穀物ヲ栽培シ又數里程ノ距

離ニアル山野ニ樹木ヲ植付ケ其收穫物若クハ倒シタル樹木ヲ遠ニ隔テタル自己ノ住家ニ引入ルルコトハ常ニ吾人ノ目擊スル所ナリ之ト同一ノ理由ニ因リ分業組織ノ實行セラルル産業社會ニ於テハ吾人ハ自己ノ欲スル貨物ヲ他人ノ工場、他所、他國又ハ他ノ大陸ヨリ取得スルハ極メテ普通ノ事タリ而シテ此場合ニ於テモ前ノ孤立經濟ニ於ケル他所生産ノ場合ト同樣ニ生産手續ヲ完了スルニハ運搬ノ設置アルヲ必要トス農夫カ穀物又ハ樹木ヲ運入ルルニ當リテ之ヲ助クル馬及ヒ車ヲ生産ノ用具即チ資本ノ中ニ算入セハ大規模ノ國民的收得ノ裝置タル道路、鐵道、船舶及ヒ商業的道具タル貨幣モ亦資本トシテ算入セサルヘカラス生産者ニ與フル分業組織ヨリ起ル商業的迂回法ノ利益ハ決シテ他ノ技術的迂回法ノ與フル所ニ讓ルモノニ非ス外國貿易ヨリ生スル利益ハ最モ有名ナル技術的發明例ヘハ蒸氣機械ノ使用ノ如キ資本的生産法ノ與フル利益ニ勝ルコトアルモ決シテ劣ルモノニ非ス

資本ノ觀念ニ付キ異ナリタル意見ヲ有スル者ニシテ前ニ擧ケタル七種ノ貨物ノ外ニ土地、長期間ノ使用ニ堪フル消費貨物、勞働者ノ身體等ヲモ資本中ニ包括セント欲スル者アルハ怪シムニ足ラスト雖モ資本ノ觀念ニ關シテ同一ノ意見ヲ有スル人ニシテ其内容ニ付キ意見ヲ異ニスル者アルハ頗ル怪訝ニ堪ヘサルナリ即チ昔ノ英國ノ經濟學ヨリ降テ「アドルフ」「ワグネル」氏ニ至ルマテ前ニ擧ケタル七種ノ貨物ノ外勞働者ノ生活維持ノ資料(The maintenances of productive laborers)ヲ資本中ニ算入スルカ如キ是ナリ

勞働者ニ賃金トシテ支拂ヒタル金銀若クハ勞働者ノ實際ノ賃金、食物、衣服、薪炭、點火ノ資料ハ彼等ニ前渡ヲ爲シタル企業者ヨリ觀レハ其私有資本ニ相違ナシト雖モ資本ヲ生産ノ用ニ供スル生産物換言スレハ生産ノ手段タル貨物ノ總體ナリト定義スルトキハ勞働者ノ生活維持ノ資料ハ資本ノ觀念中ニ算入スヘキモノニ非ス生産ノ手段ナル觀念ハ消費ノ手段ナル觀念ト相對立スルモノニシテ混同スヘカラス勞働者ノ生活支持ノ資料ハ彼等ノ欲望ヲ滿足スル直接ノ手段ナリ勞働者ハ人類ニシテ社會ノ一部ヲ成ス者ナリ隨テ勞働者ノ生活支持ノ資料ハ社會ノ欲望ヲ直接ニ滿タスノ資料即チ消費ノ手段タルモノニシテ生活ノ手段即チ資本ト稱スヘキモノニ非ス若シモ勞働者ハ商工業ノ經營ニ因リテ

利益ヲ受クベキ社會ノ一員ニ非スシテ勞働ヲ爲ス物質的器械ナリト看做サルトキハ勞働者ノ生活支持ノ資料ハ役畜ノ食物、火爐ノ燃料ト同種類ニ屬スルモノニシテ生產ノ方便即チ資本タルベキモノナリ論者或ハ曰ク生產的勞働者ハ單ニ消費者ニ非スシテ同時ニ生產的道具ナリ隨テ彼等ノ生活支持ノ資料ハ間接ニ貨物生產ノ用ヲ爲スモノナリト然レトモ生產ノ手段及ヒ消費ノ手段ナル區別ハ唯貨物ノ直接ノ運命ニ付テノミ立ツルコトヲ得ベキモノナリ間接ノ結果ヨリ云フトキハ生產ノ手段モ亦間接ニ人ノ欲望ヲ滿タスモノナルカ故ニ間接ノ結果如何ハ區別ノ標準トシテ取ルベキモノニ非サルナリ勞働者ノ消費スル食物ハ社會ノ組合員ノ欲望ヲ直接ニ滿タスノ用ヲ爲スモノナルカ故ニ消費ノ手段ニシテ生產ノ方便ニ非サルナリ

第四　資本ノ種類

(第一)固定資本及ヒ流動資本

此區別ハ生產ニ使用スルコトヲ得ベキ度數ヲ基礎トシテ立テタルモノナリ固定資本トハ一度生產ニ使用スルニ因リテ其性質ヲ變スルコトナク數回同樣ノ生產ニ使用シ得ベキモノヲ謂ヒ流動資本トハ一度生產ニ使用スルニ因リテ全ク其性質ヲ變シ再ヒ同樣ノ生產ニ使用スルコトヲ得サルモノヲ謂フ例ヘハ紡績用ノ鍾、運河、工場用ノ蒸氣機械ノ如キハ固定資本ナリ播付ケタル種子、耕地ニ施シタル肥料紡績糸ノ原料タル棉花ノ如キハ流動資本ナリ

固定資本ノ增殖ハ永遠ニ幸福ヲ增進シ生產ヲ增加スルモノナリ之ニ反シテ固定資本ノ減少ハ永遠ニ生產ヲ減縮スルモノニシテ社會衰微ノ徵候ナリ然レトモ固定資本ノミ獨リ增加シ之ニ應シテ流動資本ノ增加ナキトキハ固定資本ノ一部ハ利用セラレサルコトト爲ルベキカ故ニ兩者ノ間ニ權衡ヲ失スルハ不可ナリ

固定資本ノ增加ハ大ニ望マシキコトナレトモ之カ成立ヲ困難ナラシムル原因種種アリ今其二三ヲ列擧スレハ左ノ如シ

(一)永續スル性質ヲ有スル資本ヲ作ルニハ多量ノ勞力ヲ要ス而シテ保續期間延長スルトキハ之ヲ作ルノ勞力モ亦增加スルヲ通常トス

(二)人ノ將來ヲ慮リ將來ヲ信スル能力ニ一定ノ限界アリ

(二)ハ現在ニ於テ勞力其他ノ出費ヲ爲スコトヲ要スル而シテ其報酬ハ固定資本成立シ之ヲ使用スルニ因リテ勞力ヲ節減シ又ハ勞力ノ效果ヲ增加スルニ因リ(二)ヲ之ヲ收ムルコトヲ得ヘシ然レトモ勞力其他ノ出費ハ現在ニ要スル犧牲ニシテ勞力ノ節減、勞力ノ效果ノ增加ニ因リテ生スル利益ハ將來ニ至リテ始メ(三)ヲ收ムルコトヲ得ヘキモノナリ而シテ資本ノ保續スル期間長キトキハ報酬ヲ全部ヲ收得スルコトヲ得ル時期モ亦遠シト謂ハサルヲ得ス故ニ固定資本ノ作成ニ要スル現在ノ犧牲ト之ヨリ生スル將來ノ利益トヲ比較スルニハ大ニ先見ノ明ト將來ヲ慮ルノ力アルヲ要スルモノナリ是レ文明進歩ノ程度低キ時代ニ固定資本ノ增加セサリシ理由ノ一ナリ

(三)固定資本ノ保續期間長キニ過クルトキハ無用物ト爲ルノ虞アリ例ヘハ險阻ナル山間ノ道路ハ隧道ノ新設ノ爲メニ無用物ト爲ルカ如キ是ナリ故ニ此ノ如キ保續期間長キ固定資本ヲ作ルコトハ大ニ人ヲシテ躊躇セシムルモノナリ何トナレハ人生ノ幸福ニ何等ノ關係ナキ資本ノ物質的永續性之ヲ識見スルニ難カラスト雖モ效用ノ永續ハ主トシテ將來ノ人智ノ發達、社會ノ變遷ニ因リテ左右セラルルモノナルカ故ニ之ヲ洞察スルコト頗ル困難ナレハナリ

(第二)自用資本ト他用資本

此區別ハ資本ヲ使用スル人ト其所有主ト同一ナルヤ否ヤニ基キテ立テタルモノナリ

自用資本トハ資本ヲ所有スル者カ自ラ生產ニ從事シテ使用スル資本ヲ謂ヒ他用資本トハ自ラ使用セスシテ他人ニ貸與シテ使用セシムルモノヲ謂フ

資本ヲ有スル者ハ總テ資本家ナレトモ從來經濟學者ハ自ラ勞働セス其所有ノ資本ヲ他人ニ貸與シ之ヨリ生スル一定ノ歲入ヲ收メテ生計ヲ立ツル者ニ限リ之ヲ資本家ト稱シタリ

第五　資本ノ生產ニ對スル效用

(一)資本ハ人ノ生產的活動ヲ助ク　資本ハ有利ナル迂回的生產手續中ニ生スル中間ノ生產物ニシテ其迂回的生產方法ヲ完成セントスル人ノ活動ヲ補助スルモノナリ例ヘハ棉花及ヒ紡績機械石炭等ハ棉糸ヲ作ラントスル人ノ活

動ヲ補助スルモノナリト謂フコトヲ得ヘシ

(二)資本ハ新ニ資本ノ發生スルコトヲ助ク多クノ資本ヲ有スル人ハ其資本ヲ利用シ生産手續ヲ完了シテ容易ニ多量ノ消費貨物ヲ作ルコトヲ得ルノミナラス新ニ資本ヲ作ルコトニ付テ特別ノ便宜ヲ有スルモノナリ何トナレハ彼ハ現在及ヒ近キ將來ニ要スル消費貨物ハ既ニ有スル資本ニ依リテ容易ニ作ルコトヲ得ヘシ換言スレハ現在及ヒ近キ將來ニ要スル消費貨物ヲ得ルカ爲メニ過去ノ生産力ニ依リテ爲サレタル部分(資本ノ補助)多キカ故ニ現在及ヒ近キ將來ノ爲メニ現在ノ生産力ヲ要スルコト甚タ尠シ故ニ現在ノ生産力ノ大部分ハ自由ニ將來ノ爲メニ使用スルコトヲ得ヘシ換言スレハ現在ノ生産力ヲ更ニ資本ノ作成ニ用フルコトヲ得ヘシ故ニ資本ノ存在ハ新ニ資本ノ發生スルコトヲ助クルモノナリト謂フナリ

第六、資本ノ成立

資本ノ成立ニ關シテ古來三箇ノ說アリ一ハ資本ハ貯蓄ニ因リテ生スルモノトシ一ハ勞働ニ因リテ生スルモノトシ一ハ二者相待チテ發生スルモノナリト爲ス而シテ此第三ノ學說ハ多數ノ人ノ承認スル所ニシテ且最モ穩當ナルモノナリ

註「アダム、スミス」ハ有名ナル富國論第二卷第三章ニ資本ノ成立ヲ說キテ曰ク「資本增加ノ直接ノ原因ハ生産ニ非スシテ貯蓄ナリ」ト此說ハ氏ノ學問上ノ信用ニ由リ一世ヲ風靡シ當時之ニ對シテ異說ヲ唱フル者ナカリシカ數十年ノ後ニ至リテ漸ク反對說ヲ主張スル者起リ之ニ贊成スル者次第ニ增加シタリト雖モ晩近ニ至ルマテ氏ノ學說ヲ祖述スル有名ナル學者亦尠カラス例ヘハ「ミル」ノ資本ハ貯蓄ノ結果ナリ「ロッシェル」ノ資本ハ主トシテ貯蓄ノ結果ナリ、「ウォーカー」ノ資本ハ獨リ貯蓄ヨリ生スト曰ヒシカ如キ是ナリ第二ノ學說ハ千八百四年「ローデルデール」始メテ之ヲ唱ヘ後世社會主義ノ理論家タル「ロッド、ベルタス」「カール、マークス」「ラッサル」等ノ異口同音ニ主張セル所ニシテ資本ハ勞働ニ因リテ生スルモノニシテ貯蓄ニ因リテ生スルモノニアラス資本ハ勞働ニ因リテ積極的ニ生産セラレタルモノニシテ貯蓄ト云フカ如キ消極的ノ行爲ニ因リテ發生シタルモノニ非スト云フニ在リ而シテ社會主義者モ

非スシテ現今經濟學者中勞働説ニ左袒スル者少カラス例ヘハ佛國ノ有名ナル經濟學者「ギデ」ノ如キ獨逸ノ經濟學者「クライン、ウヒテル」「マイエル」「ワグネル」「コーン」ノ如キ是ナリ資本ノ成立ヲ勞働ニ歸スルノ學説ハ暫時ノ間ニ大ニ勢力ヲ得タリト雖モ勞働ノ外貯蓄モ亦資本ノ形式ニ與リテ力アルモノナルコトハ今尚ホ多數ノ學者ノ認ムル所ナリ例ヘハ「ラウ」「リッカ、サレノー」「コッサ」等ノ如シ

今第三説ヲ主張スル學者カ其説ヲ確メンカ爲メニ資本ノ發生ノ原始的狀態ヲ示スカ爲メニ採用シタル例ヲ左ニ記述スヘシ

「ロビンソン、クルーソー」カ一物ヲモ所有セス單身僻隅ノ一孤島ニ漂著シタリト假定センカ彼ハ資本ヲ利用シテ有利ナル生産方法ヲ取ルコト能ハサルカ故ニ例ヘハ野生ノ覆盆子ヲ拾集スルカ如キ極メテ原始的ノ方法ニ依リ生活ヲ支ヘサルヲ得サルナリ此時ニ當リ彼カ第一ノ資本例ヘハ弓矢ノ如キ物ヲ得ント欲セハ如何ナルコトヲ爲スヲ要スルカ第一説ニ云ヘルカ如ク貯蓄ハ資本ヲ發生セシムルコトヲ得ルヤ否ヤ決シテ然ラス「クルーソー」ハ拾集シタル覆盆子ノ消費ヲ制限シテ之ヲ蓄積スルコトヲ得ヘシ然レトモ覆盆子ハ如何程多量ニ蓄積スルモ消費貨物ニシテ資本ニ非ス第一ノ資本タルヘキ弓矢ハ決シテ自然ニ發生セス必ス勞働ニ依リテ新ニ作出セサルヘカラス果シテ然ラハ資本ノ起源ハ單ニ勞力ノミナルヤ否ヤ決シテ然ラス勿論「クルーソー」ハ資本ヲ作出スル暇アルトキハ直チニ勞働ヲ爲シテ資本ヲ作出スルナラン然レトモ資本ヲ作ランカ爲メニ勞働セント欲セハ先ツ資本ノ作出ニ從事スル餘暇ヲ作ラサルヘカラス「クルーソー」ハ彼ノ有スル生産力ノ全部ヲ現在ノ生計ノ用ニ供スルコトヲ止メ其一部ヲ資本ノ作出ニ用ヒンカ爲メニ留保セサルヘカラス換言スレハ資本ヲ作出スルニハ勞働ヲ爲ス前ニ先ツ生産力ノ一部ヲ貯蓄セサルヘカラス例ヘハ「クルーソー」ノ有スル一日ノ生産力ノ分量ハ一日ノ勞力ト同一ナリ彼ハ一日十時間働クモノト假定セハ彼ノ一日ノ生産力ハ十時間ノ勞力ナリ今假ニ孤島覆盆子ノ賦與少ク彼ハ十時間ヲ勞働スルモ辛ウシテ其生活ヲ支フルニ足ルノ食物ヲ得ルニ過キサルトキハ彼ハ資本ヲ作出スルコト能ハサルナリ縱令彼ハ弓矢ヲ作リ之ヲ利用スルトキハ如何ニ有益ナルカヲ熟知スルモ之ヲ作ルノ時ト

力トヲ有セサルナリ若シ彼カ自己ノ境遇ヲ覺ラス弓矢ヲ作ランカ爲メニ覆盆子ノ拾集ヲ怠ルトキハ未タ弓矢ヲ作リ之ヲ利用スルコトヲ得サルニ彼ハ既ニ餓死セサルヲ得サルナリ隨テ此ノ如キ場合ニハ資本ハ決シテ發生セサルナリ今若シ假定ノ事實ヲ少シク變更シ此孤島ニ於ケル覆盆子ノ供給前ヨリ稍ヤ潤澤ニシテ「クルーソー」カ健康ヲ進メ益〻强健ナラント欲セハ全一日十時間拾集シタル覆盆子ヲ要スレトモ單ニ生活ヲ支フルカ爲メニハ九時間ノ拾集ヲ以テ足ルモノトス此ノ如キ場合ニハ「クルーソー」ハ左ニ掲クル二ノ行爲ニ付キ選擇ノ自由ヲ有スルモノナリ(第一)彼ハ食物ノ準備ヲ豐富ナラシメンカ爲メニ全一日覆盆子ノ拾集ニ從事スルコトヲ得ヘシ斯クスルトキハ彼ハ十分ニ現在ノ口腹ノ慾ヲ逞ウスルコトヲ得レトモ弓矢ヲ作ルカ爲メニ時ト力トヲ費スコト能ハサルナリ(第二)彼ハ十時間ノ勞働力ヲ全然現在ノ慾ヲ充タスカ爲メニ用フルコトナク覆盆子ノ拾集ヲ九時間トシ以テ辛ウシテ生活ヲ支フルタケニ止ムルコトヲ得ヘシ此時ニハ彼ハ十時間内ノ一時間ノ生産力ヲ以テ武器ヲ作ルコトヲ得ヘシ換言スレハ現在ノ快樂ノ一部分ヲ削減シ現在ノ生産力ノ一部分ヲ以テ資本ヲ作出スルコトヲ得ヘシ此ニ所謂現在ノ快樂ノ削減ハ必スシモ前ニ舉ケタルカ如キ甚シキ苦痛ヲ感セシムルカ如キモノタルヲ要セス「クルーソー」ノ勞働能力一層强大ナルカ又ハ天惠物一層豐富ナルコトニ因リ彼ノ一日ノ生産力一層大ナルトキハ彼カ弓矢ヲ作ルカ爲メニ要スル現在ノ快樂ノ削減ハ前例ニ比スレハ稍ヤ輕微ナル苦痛ヲ惹起スルニ過キサルナルヘシ要スルニ資本ノ發生ハ現在ノ生産力ノ全部ヲ現在ノ快樂ノ用ニ供セシテ其一部ヲ將來ノ快樂ノ用ニ供センカ爲メニ留保スルコトヲ要スルモノナリ換言スレハ資本ヲ作出スルニハ生産力ノ貯蓄ナカルヘカラス茲ニ讀者ノ注意ヲ乞フヘキハ貯蓄ノ目的物ハ生産力ニシテ資本ヲ形成スル貨物ニ非サルコト是ナリ人ハ現在ノ快樂ヲ制限シテ生産力ヲ貯蓄シ之ヲ以テ資本ヲ作ルコトヲ得ルナリ唯極メテ例外ノ場合ニ於テハ資本ヲ形成スル貨物其物カ貯蓄ノ直接ノ目的ト爲ルコトアリ例ヘハ穀物ノ如キハ其性質上食物トシテ直接ノ消費ニ充テ又ハ種物トシテ生産ノ用ニ供スルコトヲ得ヘシ今若シ穀物ノ一定量ヲ直接消費ニ供スルコトヲ止メテ種物トシテ生産ニ使用スルトキハ其一定量ノ穀物ハ資本ト爲ルナリ

故ニ此場合ニ於テハ資本ヲ形成スル貨物即チ穀物ヲ直接消費ニ供セスシテ將來ノ快樂ノ爲メニ留保スルコト即チ穀物ノ貯蓄ハ種子ナル資本ノ發生スル基礎ヲ成スモノナリ

資本ノ存在額ノ增加モ亦原始的作成ト同一ノ事情ニ因リテ行ハルルモノナリ例ヘハ「タルーソー」カ一箇月每日九時間ノ勞働ヲ以テ拾集シタル覆盆子ヲ消費シテ生活ヲ支ヘ殘餘ノ一時間ヲ武器ノ作製ニ用ヒタリト假定セヨ今彼ハ三十日間ノ勞働ノ結果トシテ弓矢ヲ得之ヲ以テ禽獸ヲ捕獲シ前月ヨリハ一層容易ニ且十分ニ生活ヲ營ムコトヲ得ルニ至レリ隣ヲ得テ獨ヲ望ムハ人情ノ常ナリ彼ハ弓矢ノ外衣服、家屋其他快樂ヲ與フル各種ノ貨物ヲ欲スルノ情切ナリ然ルニ此等ノ貨物ヲ作製スルニハ相當ノ中間ノ生產物例ヘハ斧、鋸、鎌、釘等ナカルヘカラス「タルーソー」ハ如何ニシテ此等ノ新資本ヲ作成スルコトヲ得ルカ

彼若シ弓矢ノ作製ニ因リテ改良セラレタル境遇ヲ單ニ直接ノ快樂ヲ增スカ爲メニ利用スルトキ詳ク言ヘハ彼ノ全體ノ勞働時間ヲ覆盆子ノ拾集、禽獸ノ狩獵睡眠等ニ用フルトキハ曾ニ新ナル資本ヲ得ル能ハサルノミナラス既得ノ資本

雜報

○授業開始並ニ梅博士ノ訓諭　本校ニ於テハ例ノ如ク去ル十一日ヨリ授業ヲ開始シ十六日梅博士ハ新入學生一同ニ對シ修學上注意スヘキ件ニ付キ訓諭セラレタリ

○文官高等(迅速作文)、判檢事、特許代理業者試驗問題

文官高等試驗迅速作文試驗問題(本月一日執行)

憲法　非常大權ノ行動ヲ以テ憲法ノ條項ヲ停止又ハ變更スルコトヲ論ス

刑法　內亂ノ未遂犯罪ニ對シテ本刑ヲ科スル理由如何

民法　遺言自由ノ得失ヲ論ス

行政法　印紙賣下賣價ト國家專賣トノ異同ヲ論ス

經濟學　勸工場ニ於ケル報酬漸減法ノ適用ヲ論ス

國際法　海上ニ於ケル私有財產ノ臨時捕獲ニ關スル諸主義ヲ沿革的ニ述ヘ特ニマンヂナミン、フランクリン已來米國ノ主張スル主義トノ反對スル英國主義トヲ比較評論セヨ

判事檢事登用第一回筆記試驗問題(本月四日乃至九日執行)

憲法

第一問　法律義務ノ效力ト其公布ノ效力トヲ説明スヘシ

第二問　憲法ニ於テ信教ノ自由ヲ保明シタル理由及ヒ其範圍ヲ論定スヘシ

行政法

第一問　公法上ノ契約ノ觀念ヲ論スヘシ

第二問　公用徵收ノ性質ヲ論シ併セテ其賠償ノ法理ヲ論スヘシ

民法

第一問　條件及ヒ期限ノ性質ヲ説キ條件ノ成就ト期限ノ到來トノ效力ヲ論セヨ

第二問　不法行爲ニ因レル債權ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ルヤ

民事訴訟法

第一問　證明ト疏明トノ異同ヲ説明スヘシ

第二問　假差押及差處分ハ如何ナル場合ニ之ヲ許スヘキヤ

商法

第一問　約束手形ト爲替手形トノ差異如何

第二問　甲乙丙三運送人相次テ運送ヲ爲シタル場合ニ於テ甲乙ハ其運送ニ付丙ノ使用人ノ不注意ニ基キタル損害ヲ賠償スル責任アルヤ

刑法

第一問　不能犯トハ何ヲヤ

第二問　侮辱罪ト誹毀罪トノ差異如何

刑事訴訟法

第一問　公訴權發生ノ原因及ヒ公訴提起ノ效力如何

第二問　豫審ハ檢事カ之ヲ爲シタルト被告人カ之ヲ爲シタルトニ依リ其規定ヲ異ニスル所アリヤ若シ其規定ヲ異ニスル所アラハ理由ヲ付シテ之ヲ叙述スヘシ

國際公法

第一問　樣約國ノ一方ノ意思ニ因リ正當ニ條約ヲ廢棄スルコトヲ得ル場合アリヤ

第二問　交戰國ハ局外中立國ノ艦船ヲ臨檢スルコトヲ得ルヤ

國際私法

第一問　內國ニ於ケル外國人ノ權利及ヒ義務ヲ略説スヘシ

第二問　一國ニ於テ爲シタル法定禁治産ノ宣告ハ他國ニ於テ效力ヲ有スルヤ否ヤ

特許代理業者試驗問題（本月五日乃至十日執行）（法律以外ノ問題ハ之ヲ略ス）

特許、意匠、商標ニ關スル法令

第一問　同一ノ發明、意匠及商標ニ付各二箇ノ出願アリ甲出願ハ乙出願ノ後ナリ然ルニ甲出願ハ乙出願ノ前ニ於テ工業所有權保護同盟條約國ニ出願シタルモノタルトキ前記各二箇ノ出願中何レノ出願ニ對シ特許又ハ登録ヲ許サルヘキヤ

第二問　特許證ノ改訂ヲ出願スヘキ場合及特許證改訂ノ效果如何

第三問　意匠法ニ依リテ保護セラルヘキ意匠ノ意義ヲ說明シ併セテ發明トノ異同ヲ辨スヘシ

第四問　商標ノ異同類否ヲ決スヘキ觀察方法ヲ問フ且ツ左ニ掲クル商標ニ付類否ヲ論定セヨ

甲商標　鱗ノ圖形（圖略）　乙商標　桐ノ圖形（圖略）

民法

第一問　共有者ノ持分トハ何ソヤ

第二問　停止條件附雙務契約ノ目的物ガ滅失シタル場合及毀損シタル場合ノ損失ノ負擔ニ關スル民法ノ規定ヲ論評セヨ

刑法

第一問　犯罪構成ノ要素如何

第二問　侮辱罪ト誹謗罪トノ區別ヲ說明セヨ

民事訴訟法

第一問　裁判所ノ職權ヲ以テ鑑定ヲ命スルコトヲ得ル理由ヲ說明スヘシ

第二問　訴ノ取下ト請求ノ拋棄トノ差異ヲ辯明スヘシ

刑事訴訟法

第一問　公訴ヲ爲スノ權消滅ノ原因竝及理由ヲ說明セヨ

第二問　私訴ノ時效ノ期間ヲ公訴ノ期間ト同クセシ理由及其沿革ヲ說明シ併セテ之レヲ論評セヨ

（注意）校外生月謝納付ノ際ハ必ス本紙ヲ切拔キ居所、氏名及爲替番號、金額、並ニ學年別、月謝ノ月別若クハ何月分ヨリ何月分迄ト記入シ爲替劵ニ添附スルモノトス

納付書

爲替番號（　　）

一金

但第　學年　月分月謝

右納付候也

居所

明治三十五年　月　日

和佛法律學校會計局御中

納付書

爲替番號（　　）

一金

但第　學年　月分月謝

右納付候也

居所

明治三十五年　月　日

和佛法律學校會計局御中

法學志林

毎月一回十五日發行
一冊特價郵税共金九錢
十冊前金郵税共八十錢

第三十五號　九月二十日發行

志林

○電報ノ僞造ヲ論ス　法學士　豐島直通
○最近判例批評　法學博士　梅謙次郎
○商號ニ就テ　法學博士　富谷鉎太郎

纂論

○取引所解疑　海山獵夫

○留置權ノ發生ト占有トノ關係、法學博士富井政章○罪名ヲ異ニセル附帶控訴、法律學士鶴見守義○怪約成立ノ時期、法學士秋山雅之介○竹木ノ生存期ヲ限トシタル地權ノ效力、法學士中山成太郎○公用物ノ意義、法學士岡實○巡査ノ拔劍及ヒ憲兵ノ兵器使用ノ性質、法學士岡實

其他判例、雜報、記事數十件

發行所　和佛法律學校

明治二十二年十二月九日內務省許可
明治三十四年十一月四日第三種郵便物認可

明治三十五年九月十九日印刷
明治三十五年九月二十日發行
（定價金貳拾錢）

東京市京橋區南紺屋町二十七番地
編輯兼發行者　櫻田久次郎

東京市牛込區矢來町三番地
印刷者　小宮山信好

東京市芝區麻布ノ久保明舟町十一番地
印刷所　金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地
發行所　司法省指定　和佛法律學校
（電話番町百七十四番）